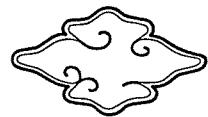


平成 30 年度

研修集録



秋田県立横手高等学校

教師も「主体的な学び」を

校長 佐々木 均

今年度創立120周年を迎えた本校は、教育体制の面でも記念すべき進展があった。文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（S S H）の指定を受けたことである。日常の授業改善の取組に加えこの新たな事業が加わり、先生方には大変忙しい思いをさせた1年ではなかつたかと思う。

1年生全員がS S H学校設定科目「MDS基礎」を履修し、二学期には「F T D C」(Field Trip for Data Collection)と称して、各課題研究班ごとに校外でフィールドワークを行った。地域の身近な課題について自分たちがその解決のための仮説を立て、これまで学んだ統計学的な視点から考察を行った。2月1日の成果発表会で研究成果を口頭やポスターで堂々と披露する姿を見て、生徒が確かに「主体的・対話的で深い学び」をしてきたと感じたのは私だけではないと思う。「MDS基礎」を履修した生徒の振り返りアンケート結果によれば、ほとんどの生徒は「授業に積極的に参加した」と答え、1年間で印象に残っているのは「MDS基礎 in 秋田県立大学」、「F T D C」、「プレゼンテーション」という順になっていた。

また、理数科2年生の課題研究も、これまでに比べ外部の様々な舞台で発表する機会が格段に増え、経験を積む度により自信を深めていく頗もしい姿を見ることができた。特に1月に行われた県教育委員会主催の「秋田の教育資産を活用した海外交流促進事業」において、県内のS S H指定校である秋田北鷹高校、秋田中央高校の生徒達とともにタイ王国を訪れた数学班の「MINTY数の探究」と題する英語によるプレゼンテーションが好評であった。生徒は特別な舞台に立つことにより、めざましく成長する。部活動で本番の試合やより上位の大会に出場しなければ、実力を向上させることが難しいのと同じである。

それは教員にも当てはまるのかもしれない。しかし、日々多忙な中で外部のいろいろな研修や研究会に参加する時間をそうそう取れるものではなく、心苦しく思っている。それにも関わらず今年度はS S H指定を機に、先生方も例年に比べ多くの視察行ってくれたことはありがたい。加えて今年度は全国高等学校国語教育研究連合会第51回研究大会秋田大会が開催され、全県のほとんどの国語の先生方が参加し、本校でも国語の先生方が重要な役割を果たし、日常の授業研究の成果も発表したと聞いている。大変頼もしいことであると喜んでいる。忙しい日常ではあるが、教員も校内だけに留まらず、可能な限り校外の情報も吸収していただければありがたい。生徒に負けず「主体的・対話的で深い学び」を実践したいものである。

最後になるが、校内相互授業参観期間に授業を公開してくださった先生方、研究成果を寄稿してくださった先生方、有意義な各種研修を企画してくださった先生方、そしてこの1年間の研修成果をまとめ、集録という形にしてくださった研修部の先生方をはじめ関係の皆様に厚くお礼申し上げる。この集録が各位の有意義な研修成果の共有に寄与し、活用されることを願っている。

目 次

〈卷頭言〉

校長 佐々木 均

	頁
〈校内相互授業参観〉	
平成30年度校内相互授業参観（研修部）	1
〈公開研究授業及び大会報告〉	
(1) 国語科	
学習指導案（成田陽香）	5
研究協議会記録（川越真紀子）	7
(2) 数学科	
学習指導案（武塙章太）	8
研究協議会記録（武塙章太）	10
第68回高等学校教育研究大会報告（藤本亮 武塙章太）	12
(3) 英語科	
研究協議会記録（渡辺伸吾）	14
学習指導案（渡辺伸吾）	15
(4) 理学科	
学習指導案（佐藤隆）	17
研究協議会記録（佐藤隆）	19
(5) 地歴・公民科	
学習指導案（木村留衣子）	21
研究協議会記録（佐々木満）	23
(6) MDS基礎	
学習指導案（鈴木亘 今野栄一）	26
研究協議会記録	28
〈年次研修〉	
高等学校初任者研修報告（成田陽香）	29
高等学校中堅教諭等資質向上研修を終えて（高橋直樹）	37
高等学校8年経過研修講座（目黒大祐）	43
〈校外事業報告〉	
台湾からの大学生との交流について（沓澤信宏）	45
秋田の教育資産を活用した海外交流促進事業・	
タイ王国訪問について（沓澤信宏）	46
〈その他〉	
第1回秋田県12高校進学協議会の報告（高橋史）	48
第2回秋田県12高校進学協議会の報告（高橋史）	55

平成30年度 校内相互授業参観

研修部

- 1 期 間 第1回 平成30年6月6日(水)～6月15日(金)(8日間)
第2回 平成30年10月29日(月)～11月9日(金)(10日間)
- 2 時 間 期間内の1校時から6校時まで
- 3 対 象 全教員
- 4 目 的
 - ・教員が互いに授業を参観し、生徒の学習意欲を高める授業づくりを目指す。
 - ・教科を越えて意見を交換し合うことにより、さまざまな視点から目標や課題を見いだす。
 - ・他の授業における生徒の状況を観察し、生徒個々の指導に活かしていく。

5 参観方法

(1) 期間前・期間中

授業者	参観者																																
①授業実施 ②授業者は提出された感想カードを読み、授業の改善に努める。	<p>①授業参観 ②授業後、「感想カード」に感想を記入し、コピーして授業者と研修部に提出する。</p> <p>平成30年度第1回校内相互授業参観週間 授業参観カード</p> <table border="1"><thead><tr><th>授業者</th><th>先生</th><th>科目名</th><th></th></tr><tr><th>クラス</th><th>H.R.</th><th>参観日</th><th>月 日() 校時</th></tr><tr><th>参観者名</th><td colspan="3"></td></tr></thead><tbody><tr><td>学習課題の提示・確認</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>思考判断</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>言語活動</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>板書の工夫</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>その他</td><td colspan="3"></td></tr></tbody></table>	授業者	先生	科目名		クラス	H.R.	参観日	月 日() 校時	参観者名				学習課題の提示・確認				思考判断				言語活動				板書の工夫				その他			
授業者	先生	科目名																															
クラス	H.R.	参観日	月 日() 校時																														
参観者名																																	
学習課題の提示・確認																																	
思考判断																																	
言語活動																																	
板書の工夫																																	
その他																																	

※他教科の参観も含め、積極的に参観する。

また、授業全体を通して参観することを原則とするが、部分参観も可とする。

(2) 期間終了後

研修部が「授業の感想」をとりまとめ、年度末に研修集録に掲載する。

平成30年度 校内相互授業参観 アンケート集計

- ① 学習課題の提示・確認 ② 思考判断 ③ 言語活動 ④ 板書の工夫 ⑤ その他

	参観日	参観教科	参観科目	感 想
1	6月11日	国語	古典	<p>何度か提示された課題を見返す場面があったおかげで、内容を読み取るという</p> <p>① 目的をもって現代語訳させられていたと思いました（私は文法に気を取られがちなので…）。</p> <p>生徒が答えにくそうな場面での助言が参考になりました。特に、敬語や助詞をいちど取り払って訳す、という方法はわかりやすく、ぜひ真似しようと思います。</p> <p>何度もペアで確認させるところが印象的でした。特に単語については問題で出した単語について「暗記」ということに気を重くしがちですが、覚えたことが実際に文章を読む時にも使えるという経験が、生徒の自信や意欲向上につながると思いました。私も教材同士のつながりをもっと授業で使って意識させたいと思います。答えたことが本文読解にもつながっており、理解が深めやすかつたと思います。</p> <p>単元のはじまりということで、後半まで相関図が残っていたことが良いと思いました。省略された主語や指示語の内容等、相関図があったおかげで考えやすかったです。</p> <p>⑤</p>
2	6月14日	公民	政治・経済	<p>① されていた。</p> <p>覚える事が多い中で、理解した用語を適切に使えるかどうかに主眼を置いていました。</p> <p>③ 笑いもあり、自分の言葉で話しやすそうな雰囲気づくりにも配慮されている。</p> <p>④ 多すぎず、板書だけでなく掲示物も時間をかけて準備されている。</p> <p>⑤ 先生の人柄がよく出ている授業で、心地よい空間に感じました。</p>
3	6月15日	英語	コミュニケーション 英語III	<p>① 今回は板書の形では提示されていなかったが、授業のはじめに、本時の過程について丁寧な説明がなされていた。</p> <p>② 水不足に対してのより良い解決法について思考を深めさせていた。</p> <p>③ 英問英答で内容確認がされていて、それに答えることにより概要がつかめるしくみになっているのが良かった。</p> <p>④ 見やすく丁寧な板書がなされていた。</p> <p>⑤ 活動の指示が分かりやすく、生徒も今何をすれば良いかが明快で活動しやすいようだった。</p>
4	6月18日	国語	現代文B	<p>提示されていた。「①『読む』という行為とは?」「②①に対する筆者の考えは?」という二段構えで設定していたが、この二つならば、「この文章における『読む』とは?」と一つに括るのもありかも。課題とまとめのつながりが分かりやすいような工夫があつてもいいかも。</p> <p>ポイントポイントで大事なところは押さえられていたと思う。もう少し教科書から離れてみても生徒のモチベーションは上がるかもしれない。例えば、「『文字表現の欠落』を実感した経験はあるか」など、生徒の具体的な生活体験に照応させてやると、実感を伴った理解になるかも。</p> <p>上述したように、生徒の実体験と本文内容をつなぐような発問と思考を語らせるといいかも。「『今日暑いな』というとき、何℃くらいだと思う?」と聞えれば、28℃と答える生徒も22℃と答える生徒もいる。それは読みが読者の行為だからだよ、と説明すれば、評論をもう少し身近に感じさせるのでは。</p> <p>黒板は一時間を通して書きかわらない方がいいとされているので、書く分量はもっと少なくてもいいのかも。(私も書くところなくなつて消してしまいがちですが……)「接続語大事だよ、マークして」という声かけがあつたが、接続語の効果が分かるような形で板書に反映してもよいのかも。</p> <p>「古池や」について考えせるところなど、生徒は食いついていたと思います。どのように自由に考えさせたり、核心に触れる発問だったりを授業のメインにすれば、よりメリハリのきいた授業になるのかなと思います。先生ご自身のバックボーンがあるからこそ深みのある授業になっているかと思います。しっかりとまとめに5分残すところ、すばらしかったです!</p>
5	6月18日	地理歴史	世界史B	<p>① 授業プリントにも提示されていたのかもしれません、黒板に提示されれば、もっと良かったと思います。</p> <p>「なぜインドの人はカレーを手で食べるのか」という生徒への問いかけが興味深かったです。生徒にとって身近な食に関する問題から、インドのカーストに関する理解を深めさせるだけでなく、サリーが1枚の布でできていることの関連性にも気付かせるという着眼点も良かったです。</p> <p>③ 生徒がグループで話し合いをして、話し合いの結果をマグネットシートに記入させ、黒板に掲示することで全体の共有もはかれていきました。</p> <p>④ 書きすぎることなく(自分自身が書きすぎてしまう傾向があるので)シンプルに整理されていて良いと思いました。</p> <p>実物教材(レプリカ)や写真の活用、ご自身の海外旅行での体験談などまじえて興味深い内容だったと思います。またインドの地域ごとの気候の特性にも言及するなど、地理との関連性を感じられました。</p>
6	6月11日	国語	古典B	<p>① 古文『和泉式部日記』夢よりもはかなき世の中を</p> <p>② 全文を踏まえながら、適宜生徒に口語訳させていて大変参考になりました。</p> <p>③ ペアワーク及び、指名による個人の口語訳を上手に関連させていて、勉強になりました。</p> <p>④ 重要なところを押さえた簡潔な板書でした。</p> <p>これまでの勤務校では全文訳をやっていて、そのため一つの単元にかける時間が長くなりがちでした。参考になりました。</p>

7	6月15日	国語	現代文B	<p>① 評論「読む」外山滋比古 ② 「読む」ということについてペアワーク等を用いて考えさせ、その上で全体を考え、確認していくとても分かりやすかったです。 ③ 発問に関して、ペアワーク以外でも積極的な発言が見られ、とてもいい雰囲気でした。 ④ 簡潔にまとめられていてとても参考になりました。 ⑤ 一時間の授業の中で緩急があり、とても勉強になりました。ありがとうございました。</p>
8	6月18日	国語	現代文B	<p>評論「Not I, not [...]」中沢新一 ① 「貨幣による経済の発達は、死の様式によって、『死への恐れ』を乗り越えようとする試みがある」とは何か。 贈与に関するピューリタンとインディアンの思考の違いから、貨幣による経済 ② の本質について生徒の発言によって考えさせていく展開が、自然な流れでとても参考になりました。 ③ ペアワーク、グループワーク学習を用いて、生徒が発問に対してしっかり考えていて、とてもいい雰囲気の授業でした。 ④ 国語の授業において板書が横書きという点に驚きました。 ⑤ 次の時間の授業が楽しみになる授業でした。ありがとうございました。</p>
9	11月1日	地理歴史	世界史B	<p>学習課題は黒板等に掲示していた方が良いとは感じました。また、指導案に掲示されていた「大きな問い合わせ」が、授業内容を踏まえてみたときに、他の学習課題の方がふさわしいのではないかとも感じました。 ② 既習事項を生徒に気付かせながら、既習事項を活用して授業を展開できていた点が良かったと思います。 マグネットシートを活用してグループの意見を発表させ、クラス全体で共有で ③ きていた点は良かったと思いますが、シートのサイズの関係で、文字が小さくなり、後方の生徒には読みにくかったかもしれません。 ④ 樹形図のような板書は生徒の思考を促すという点で有効だと感じましたが、もう少し計画性があればより効果的なものになったと思います。 地図のワークシートの活用方法が参考になりました。「イスラーム世界」の範囲について、目安となる下線名等を用いた具体的な指示や、黒板に掲示して全体の場で赤ペンで添削を行いクラス全体で共有していた点は良かったと思います。</p>
10	11月1日	地理歴史	世界史B	<p>① 「イスラーム世界」が他の文化圏と異なる扱いである理由が明確に示されていた。 ② 「イスラーム文明」の持つ特徴について皆が見解を出し合い、授業者もそれを上手くまとめていてとても分かりやすかったです。 ③ グループ活動においてもそれぞれが積極的に発言していてとてもよかったです。 ④ 黒板全体を左から右へと上手に使っていてとても見やすかったです。 東アジアにも大きな影響をもたらしたイスラーム文明は中国の新儒教、そして ⑤ その流れにある日本の江戸期にも何らかの影響があるのではないか等、いろいろ新たな興味を抱きました。ありがとうございました。</p>
11	11月2日	理科	物理	<p>① 本時において何を学習するかが明確に示されていて、しっかりと意識することができた。 ② 考え、そして実験で検証するという課程によって生徒達の考え方の精度が確実に高まっている様子がはっきりと分かり、大変参考になった。 ③ 適宜、隣の人との情報共有が図られていて、全体で考える場面、隣の人と話し合う場面のめりはりがあってとても良かった。 ④ 黒板全体が上手に使われていてとても見やすかったです。 ⑤ 高校時代、苦痛でしかなかった「物理」の授業がこんなにも楽しく、知識欲を高めてくれるものかと感動しました。ありがとうございました。</p>
12	11月2日	理科	物理	<p>説明を踏まえて「どの段階まで求めたら、学習課題が達成できるのか」が明確で、生徒の意欲が高まると思いました。 前時までの授業内容を生徒はよく理解しており、発問に対してとてもよく考えているのが伝わってきました。 ③ グループ活動が活発であるのはもちろん、あてられて発表する生徒も根拠を持って答えおり、しっかりと説明していると感じました。 ④ シンプルで必要な情報が記載されており、一目で思考の過程が分かる黒板でした。 実験のところを拝見できず、大変申し訳ありませんでした。生徒が顔を上げて ⑤ ひと言も逃さず吸収したいと思っているのが伝わり、先生の作るテンポや緊張感が意欲を高めているのだと思います。大変ありがとうございました。</p>
13	11月2日	理科	物理	<p>① 前時までの内容を復習した上で、本時より難易度が高い課題を提示するという流れがスムーズでした。 はじめの予測に対し、既習の知識を用いて理論的に考えさせる声かけが何度か ② あったことが印象的でした。生徒が出した答えをもとに授業を進めることも、生徒の自信につながると思いました。 ③ 不明点については自然に相談し合ったり、考えあつたりする姿が見られ日頃から教室全体で話し合う雰囲気ができていることを感じました。 ④ 復習と公式、本時の課題と振り返り、本時で重要な公式と、生徒が今考えるべきことが一目で分かるような構成でよかったです。 ⑤ 様々な器具を手際よく用いて、生徒の予測を証明することで生徒の好奇心や集中力を途切れさせないところが素晴らしいと思いました。</p>

14	11月2日	理科	物理	<p>① 既習事項を復習しながら、自然の流れで課題が提示されていたので生徒にしっかりと確認させることができていた。</p> <p>② 生徒個人に考えさせる場面と、ペアワーク・グループワークが効果的に取り入れられており、生徒の思考が深まるのがよく分かりました。</p> <p>③ 生徒一人一人が積極的に授業に参加する姿勢ができており、発表でも自分の意見を的確に説明できていた。発問も適切であった。</p> <p>④ 1時間で黒板一面を使いとても見やすい板書であった。</p> <p>生徒が生き生きと授業に参加していた。教具を適切に活用することで実験も効果的に行え、データの処理や考察までスムーズに持って行くことができており素晴らしいだった。</p>
15	11月5日	SSH	MDS基礎	<p>① スクリーンやパソコンの画面上で、本時に行うべき作業が明示されて、各グループ内でしっかりと確認できていたと思います。</p> <p>仮説の立て方や、その仮説を検証するために有効なアンケート項目の設定方法について既習事項を踏まえて行えている生徒と、そうでない生徒との差が見受けられるように感じ、その点の難しさを感じました。</p> <p>③ 他の班の発表を聞きながら、同時に評価やアドバイスを入力するシステムであったので時間も有効に活用できていたと思います。</p> <p>④</p> <p>⑤ 今年から始まった学校設定教科の授業とすることで、興味深く拝見させていただきました。</p>
16	11月5日	国語	現代文B	<p>① 「弟」の右腕の謎に焦点を絞った課題の提示・確認がなされていた。</p> <p>② 極めて難解な課題に対してクラス全体でいろいろと考えを出し合っていてよかったです。</p> <p>③ グループ活動において皆積極的に意見を出し合っていてよかったです。</p> <p>④ 黒板全体を使っていて見やすかった。</p> <p>授業は9割以上教材研究で決まると思います。難しい題材ですが、ナチスドイツの全体主義、アウシュビッツ収容所の悲惨な状況とも関連させてこの後も生徒にいろいろ考えさせてください。</p>
17	11月8日	数学	数学Ⅱ	<p>① 適切に明示されていた。</p> <p>② 個々人で問題を考えながら、グループ内で話し合うなど、生徒達はじっくりと考えていたと思います。</p> <p>③ グループ活動を通して、熱心に行われていたと思います。</p> <p>④ 板書と言うより、プロジェクト用のスクリーンを黒板に貼って、効率よくグラフなど視覚的に説明できていたと思います。</p> <p>⑤ 3次方程式の解の個数が話題であったが、なぜグラフを利用するのかを導入で考えさせていたのが、よかったです。この点は私個人としても大切であると共感している。時間の最後に行った積分の導入もおもしろかったです。</p>
18	11月9日	英語	コミュニケーション 英語Ⅱ	<p>① 提示された課題が55分間一貫して生徒にとって取り組むべき課題となっており、明確でわかりやすかったです。</p> <p>② 教科書の本文を理解した後に「問題」を分類し、解決策まで考えることで生徒個々の考えが反映される展開でした。</p> <p>③ とても控えめな生徒同士であっても積極的に取り組んでいた。誰かの発言に対しての反応もあり、クラス全體が活発でした。</p> <p>④ 板書はシンプルで指示が伝わりやすく、決して正解を記さないことで生徒達がよく考えていたと思います。</p> <p>自分の文章で記述する際、和英ではなく英和辞典を使うことに「なるほど！」と思いました。自分のわかる語句で表現することは大切なことだと実感しました。ありがとうございました。</p>

国語科（現代文B）学習指導案

日 時：平成30年11月5日（月）4校時
指導者：成田 陽香
クラス：2年2組（36名）
使用教科書：『新探求現代文B』（桐原書店）

1 単元名 小説II「バックストローク」（小川洋子）

2 単元の目標

- (1) 文章を読んで書き手の意図や人物、心情描写を的確にとらえ、表現を味わおうとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 文章を読んで書き手の意図や人物、心情描写を的確にとらえ、表現を味わう。【読むこと】
- (3) 文や文章の組み立て、語句の意味を理解する。【知識・理解】

3 単元と生徒

(1) 教材観

1996年発表の短編小説である。水泳選手である「弟」との出来事を「わたし」が回想する構成である。作品の序盤では実際にもありうる家族の姿が語られるが、中盤で「弟」が突如左腕を降ろさなくなり、終盤でその左腕が抜け落ちるという展開により、初読の段階で生徒は様々な疑問を持つと考えられる。

(2) 生徒観

グループで話し合うことに積極的な生徒が多い。話し合いのなかで教え合ったり、互いの考えについて検討したりする姿も見られる。問い合わせに対する答えを本文から抜き出すだけでなく、要点をまとめたり別の言葉に置き換えたりして説明するという力については今後も指導していきたい。

(3) 指導観

初読の段階で出た生徒の疑問を取り入れた授業とすることで、主体的に読ませたい。作品内に描かれた出来事や人物の関係性については的確に読み取るよう指導する。一方、読者である生徒自身に解釈の余地がある部分については、答えそのものよりも根拠を明確にして説明することを大切にさせながら、多様な考え方や捉え方があるというおもしろさを味わわせたい。

4 単元の指導

- 1 通読し、初読の感想や疑問を書き出す。（1時間）
- 2 感想や疑問を共有する。第一段落から「わたし」と「プール」の特徴を読み取る。（1時間）
- 3 第二段落から「弟」の特徴と家族の関係を読み取る。（1時間）
- 4 第三段落から「弟」が左腕を降ろさなくなるまでの経緯と「弟」の心情を読み取る。（1時間）
【本時】
- 5 第四段落から「弟」の左腕が何を意味しているのか考える。（1時間）
- 6 第五段落から「わたし」の心情を考える。新たに生まれた疑問について話し合う。（1時間）

5 本時の評価

関心・意欲・態度	読むこと	知識・理解
文章に描かれている状況を、本文の記述に即して読み、人物の心情や象徴的表現が示すものを捉える手掛かりとしようとしている。	文章に描かれている状況を、本文の記述に即して読み、人物の心情や象徴的表現が示すものを捉える手掛かりとをしている。	文や文章の組み立て、語句の意味を理解する。

6 本時の計画

(1) 本時のねらい

出来事や行動を本文に即して読み取ることを通して、「弟」の心情を自分の言葉で表現する。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 「わたし」の家族関係について確認する。 本時の学習課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の相関図プリントを参考にさせる。 	
学習課題：なぜ「弟」は左腕を降ろさなくなったのか。			
展開 15分	<p>具体的な発問①：誕生日までの出来事は「弟」にどのような影響を与えたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 左腕を降ろさなくなるまでの出来事を読み取る。 発問に対する自分の考えをまとめ、グループで話し合う。 		
<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明確にさせるため、本文に線を引かせる。 その出来事が起きなかつた場合、もしくは記述がない場合と比較しながら考えさせる。 			読み取ったことをもとに考えたことを自分の言葉でわかりやすく表現している。【読むこと】(観察、ノート)
展開 15分	<p>具体的な発問②：家族の対応は「弟」にどのような影響を与えたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「弟」が左腕を降ろさなくなったあとの家族の行動を読み取る。 行動から読み取れる家族と「弟」との関係性や、「弟」への影響について考え、グループで話し合う。 		
<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明確にさせるため、本文に線を引かせる。 話し合いの流れがわかるよう、相関図プリントに書き込ませる。 関係性が変化した部分、変化していない部分を意識させる。 			読み取ったことをもとに考えたことを自分の言葉でわかりやすく表現している。【読むこと】(観察、ノート)
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対する考えをまとめるとする。 グループで共有し、検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて第三段落以外も読ませる。 自分と違う意見はメモをとるよう促す。 	読み取ったことをもとに考えたことを自分の言葉でわかりやすく表現している。【読むこと】(観察、ノート)

平成30年度横手高校公開研究授業

研究協議会記録（国語科）

国語科主任 川越真紀子

I 日程

【研究授業】 11月5日（月）11：55～12：50（4校時） 研究授業（22組）

「現代文B」 成田陽香 於：22教室

単元名：小説「バックストローク」（小川洋子）

【研究協議会】 11月5日（月）16：30～17：30

II 協議会参加者

今入直樹、川越真紀子、高見直子、能美政通、古谷祥多、成田陽香

III 授業者からの報告（授業のねらい、成果や反省点など）

今回の授業では、登場人物の行動の意図について考えさせたかった。明確な答えはないと考えたため、グループ協議を通し、多様な考えがあることに気付かせることをねらいとした。

グループ協議をふまえたことで、個人の考えをまとめる場面では予想以上に熱心に取り組んでくれた。一方で時間配分が上手く出来ず、最後の意見交流が十分にできなかつた。また、状況設定など確実に読み取ってほしい部分を全員が理解できているかの確認が不十分であった。

IV 参観者からの感想

- ・席替えをし、異なるグループのメンバーに対して説明、発表させたことで、全員が活躍できていた。事前に席替えを予告しておくと、さらに責任感が増したのではないか。
- ・グループによっては答えが収束し、話し合いが深まらないところもあった。そのような班に対し、次の問い合わせへの持つていき方を考える必要がある。
- ・「色々な意見があつてもいい」という指示をしていたが、その意見が本文のどこから出てきたのかをはつきりさせなくては感想を言い合うだけで終わってしまう。線を引かせても良かったのではないか。感じ方に間違いはないが、読み取った根拠を示さなくては「答えがある問い合わせ」と「答えがない問い合わせ」に分かれてしまう。
- ・異なるグループとの交流の際、自分の意見を述べている班と、班での意見を述べている班があった。指示の仕方で効果をより深めることができたはず。
- ・自己変容を認識したり語らせたりする場面があつても良かったのではないか。
- ・具体的な発問1つ1つを深めさせたいのであれば、ジグソー法的なやり方を取り入れ、最後に学習課題に対する自分の考えをまとめさせることもできたのではないか。
- ・人物関係図は、人物同士の感情ごとに色分けがされていたらより活かせたのではないか。
- ・こじつけではない着地点があれば良いのではないか。今回の読解を次の場面にもつなげていければいい。

平成30年度公開研究授業 数学科（数学Ⅱ）学習指導案

日 時 平成30年11月8日（木）6校時
実施場所 秋田県立横手高等学校2年3組教室
対象生徒 2年3組（普通科・男子21名+女子15名=計36名）
教 科 書 『数学Ⅱ』（数研出版）
指 導 者 武塙章太

1 単元名

第6章「微分法と積分法」 第2節「導関数の応用」

2 単元の目標

微分の考え方について理解しそれらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用することができる。

3 生徒の実態

全体的に落ち着いて授業に臨んでおり、隣同士で相談するときなどは活発に意見を出している。

4 単元の指導計画

- ・接線（1時間）
- ・関数の値の変化（3時間）
- ・最大値、最小値（2時間）
- ・関数のグラフと方程式、不等式（2時間）

【本時2／2（「関数のグラフと不等式」は学習済み）】

- ・節末問題（1時間）

5 本時の目標

グラフを利用して3次方程式の異なる実数解の個数を調べることができる。

6 本時の評価規準

ア. 関心・意欲・態度	イ. 数学的な見方や考え方	ウ. 数学的な技能	エ. 知識・理解
方程式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。	方程式の実数解の個数を、関数のグラフとx軸またはx軸に平行な直線の共有点の個数に読み替えて考察できる。	グラフを利用して、方程式の実数解の個数に関する問題を解くことができる。	

7 本時の展開においてキャリア教育の視点から特に重要なこと

問題をグループで教え合って解していくことで、人間関係形成能力を高める。また、自分の考え方や解法を他人に分かるように筋道を立てて論理的に説明しようとしていることで、社会で必要なコミュニケーション能力を養う。

8 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点 及び方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフとx軸の共有点について復習する。3次方程式の復習をする。 （プリント①、②、③） 【個人】→【グループ】 本時の学習課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5分間自分で解く。その後、4人ずつのグループを作つて、解けた人は、グループ内に分からない人がいたら教える。 	
学習課題：グラフを利用して3次方程式の異なる実数解の個数を調べることができる。			
展開 I 12分	<p>具体的な発問①：3次方程式の実数解の個数をどうやって求めたら良いか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3次方程式の異なる実数解の個数どのようにして求めたら良いかを考えて、プリント④の問題を解く。【グループ】 →解けたグループが解答を板書して説明する。 		
展開 II 18分	<p>具体的な発問②：3次方程式に定数aが含まれている場合、実数解の個数をどのようにして求めたら良いか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 方程式が異なる3個の実数解をもつような定数aの値の範囲を求める。（プリント⑤） 【グループ】 →解けたグループが解答を板書して説明する。 異なる実数解の個数が2個の場合及び1個の場合の定数aの値の範囲を求める。 (プリント⑥)【個人、グループ】 →グループで確認 		
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートを配付する。余裕があれば振り返りシートの問題を解く。 教科書の練習問題の指示 次時の予告（積分法の導入） 		

平成30年度横手高校公開研究授業 研究協議会記録（数学科）

武塙 章太

I 日 程

【研究授業】 平成30年11月8日（木）14：35～15：30（6校時）

研究授業（23組） 「数学II」 武塙章太 於：23組教室

単元名 第6章 微分法と積分法「関数のグラフと方程式、不等式」

【研究協議会】 平成30年11月8日（木）16：00～17：00

II 研究協議会参加者

高橋雄一教頭、田中武夫、塩谷太、千田貴広、藤本亮、芳賀崇、小林朗子、武塙章太

III 授業者からの報告

- ・グループ学習はたまに行う。頻度は高くない。
- ・導入の、既習事項の復習に時間がかかってしまった。
- ・パワーポイントでの新しい単元の紹介は、何年か前から少しづつ作っていてストックがある。これから学ぶことがどういうことに使われるか、また、どのような歴史があるかを知ることで、興味を持てるのではないかと思って作った。
- ・予定通り進まなかった。グループ学習をすると、時間配分が難しい。

IV 参加者からの感想

- ・生徒は目の前の課題にしっかりと取り組んでいた。
- ・3次方程式の解の公式はインパクトあった。
- ・グループ学習では、みんなが教え合っていた。いわゆる「お客様」がいなかった。
- ・因数分解で解けない3次方程式も、みんな考えていた。
- ・教え込まないで、生徒に考えさせていてよかったです。
- ・積分の導入のパワーポイントがよかったです。
- ・できない生徒を助けないグループがあった。
- ・最後の問題は、2通りの方法でもっと生徒同士で議論できれば良いと思った。
- ・普段孤立する生徒も周りと話をしていた。
- ・グラフを利用して方程式の解の個数を求めるところをもっと詳しく説明すれば良かった。
- ・すぐにできるところは生徒に答えさせて、なぜそうなるかを質問していくやり方が良いのではないか。
- ・プロジェクターとスクリーンをその都度準備するのはたいへんなので、プロジェクターとスクリーンが備え付けられた教室があったら良い。
- ・生徒とうまくコミュニケーションが取れている。
- ・ヒントを言い過ぎないで、時間内で解くまで待っていたところが良かった。

- ・グループ学習のルールを最初に教えると良い。黙々と問題を解くだけで話し合わない人は評価しないなど。
- ・個々人で問題を考えながら、グループ内で話し合うなど、生徒たちはじっくりと考えていたと思う。
- ・プロジェクターのスクリーンを黒板に貼って、効率よくグラフなどを視覚的に説明できていた。
- ・3次方程式の解の個数が問題であったが、なぜグラフを利用するのかを導入で考えさせていたのが良かった。
- ・「GRAPES」は、座標や式が表示されない（表示しにくい）ことが欠点。

第68回高等学校教育研究大会報告（数学）

参加者 藤本亮、武塙章太

1. 日 時 平成30年12月1日(土) 9:20~16:30

2. 場 所 筑波大学附属高等学校（東京都文京区）

- ・各学年6クラスずつで、1クラス41名（男女ほぼ同数）3年間クラス替えなし（文型、理型分けなし）。生徒は私服で通学。SGHの指定を受けている。
- ・各学年の数学の単位数は

（1年） 数学I（3単位）、数学A（2単位）

※ 数学IIの「式と証明、複素数と方程式」まで1年生で学習

（2年） 数学II（3単位）、数学B（2単位）

（3年） 数学III（2単位）、数学II（2単位）、選択・数学III（4単位）

使用教科書は、各学年とも教研出版。使用問題集は各学年とも「サクシード」。

3年生で更に「ニューグローバルβ IAⅡB」を使用。

- ・主な現役大学合格者数（2018年度）

東京大学23、京都大学2、一橋大学4、東京工業大学4、筑波大学9、

国公立大学医学部医学科は合計15、早稲田大学74、慶應義塾大学51

3. 日程、概要

9:20~11:00

講演「大学入学共通テストの概要と課題—高大接続改革にどう向き合うかー」

（京都大学名誉教授、大学入試センター名誉教授、前大学入試センター試験

研究統括官（副所長） 大塚雄作氏）

- ・なぜ、今入試改革なのか。国際化、グローバル化、大学進学率の増加（50%以上）、AIなどに象徴される超スマート社会を受けて。
- ・高大接続改革で、アクティブラーニングが特に言われているが、すべての授業で行うというわけではない。
- ・早稲田大学では、2021年度入試から、「主体性」、「多様性」、「協働性」に関する経験を記入することになっているが、実際、書かれたものすべてを大学の先生が読めるわけはないと思う。
- ・共通テストの出題教科、科目について

2024年度以降は教科、科目の簡素化を含めた見直しを図る。

2024年度以降、地歴公民、理科でも記述式問題を導入する方向で検討中。

- ・ボリュームゾーン以下の受験生の増加を受けて、選抜型競争入試から、育成型入試へ転換している大学が増えている。入試を通して生徒を育てていくという考え方。
- ・板倉聖宣氏「人間性などの公的な評価は、不合格者の人間性否定にもつながる。大切な概念は、簡単に測定できるような単純なものではない。受験産業などによる「傾向と対策」によって「妥当性」という点で問題が生じる。」と述べている。

- e ポートフォリオについて

高校3年間で蓄積されたものがダメだったら、浪人しても次の年に良くしようと思つてもできない。これにとらわれずに地に足の着いた教育をしてほしい。

11:20～12:10 公開授業I（岩田光弘先生、数学I（図形と計量）、1年生）

13:10～14:00 公開授業II（川崎宣昭先生、数学B（ベクトル）・2年生）

どちらも、大学入学共通テストの施行テストで扱われた問題をアレンジして、5人ずつのグループに分かれて解くという形式の授業であった。

問題「3mの台座の上に6mの銅像が立っている。このとき、銅像を見込む角が最大になる場所を探してみよう。また、そのときの見込む角は何度になるだろうか。

ただし、人の身長や視線の地上からの高さは考えないこととする。」

どちらの授業でも、既習事項確認の後、grapesで実際に点を動かして見せ、見込む角が最大と思う場所で手を挙げさせた。次に、整数値を数個指定し、関数電卓で角度を計算させて、再度、最大となる場所を予想させた後に、グループごとに相談して正確な値を導くという流れであった。公開授業Iでは、三角比や平面図形の知識で解いているグループが多く、公開授業IIでは、ベクトルの内積を用いて解いているグループが多かった。同じ問題でもいろいろなアプローチの仕方があり、グループ学習で授業を進めていく場合には良い題材だと感じた。話し合って問題を解いたり、分からぬところを聞いたり教えたりすることに生徒たちは慣れていて、全員が積極的に参加する雰囲気ができていた。先生が説明しているときや、生徒が黒板で説明しているときも話し合いが続いているグループもあったりして、やや騒がしい面もあったが、それだけ生徒が熱心に問題を解こうとしている熱気が感じられた。また、1人に1台関数電卓が行き渡っていた。

14:00～16:30 分科会

- 提出物や小テストは普段どうしているか

→（教科担任によって違うが）テストごとに課題を提出させている。小テストは単元ごとに実施している。積分の計算テストなどはこまめに行っている。

- 今回のような形態で授業行うときに、これまで取り上げて面白かった題材は？

→①空間ベクトルや図形と方程式の導入の際に、他のやり方で解くと面白くさくなる問題を取り扱う。（四角錐の頂点から底面に垂線を下したとき、AP:PHなど）

②「三角形で角の2等分線の長さ」を各班で解き方が重ならないように求める。

③新テスト実行テストで出た問題 など

- 言語活動をするときに、黙っている生徒を作らない工夫は？

→数学が苦手な生徒を参加させるために、普段の授業から分からぬところを質問する雰囲気を作っている。早く解けた人がその後黙っていることがないようにする。早く解けた人は、他の人、他の班に教えるようにしている。また、分からぬことがあつたら、先生が説明していても周りに聞くように数学科全体で指導している。とにかく、分からぬところを聞きやすい雰囲気を作っている。

（実際、先生が説明しているときもざわざわしていました。）

- グループの人数について→今回は、数値計算が5つだったので、5人とした。

平成30年度 公開研究授業(英語科)

英語科 渡辺 伸吾

I 概 要

平成30年11月9日（金） 1校時 26HR コミュニケーション英語II

II 授業者より

教科書本文で都市問題とその解決策についての内容を読んだ後のフォローアップ的活動である。生徒がそれぞれ自分の住む町の問題点を取り上げ、それに対する解決策を英語で書くことを本時のねらいとして設定した。

生徒は意欲的に活動に取り組んでおり、限られた時間の中で、自分の考えをしっかりと書き出していたと思う。一方、授業者側の反省として、主活動に至るまでの準備段階で時間を使いすぎたことが悔やまれる。本文の内容の振り返りとその他の都市問題のブレーンストーミングを経て、書く内容についてのスキーマ喚起を図ろうとしたが、これが主活動のライティングに直結したかどうかは疑わしい。もっと主活動ですらすらと手が動くような準備に時間をかけたほうがよかつたと思う。例えばアウトライン作成などである。

限られた授業時間を使って有効に使うためにはある程度のルーティン化も必要だと痛感している。生徒に対して新しい指示が次々に出てくるような公開授業にはしないように今後も自戒していく。

III 参観者より

- ・ライティング活動では個人差が大きいため、語句を調べる作業や文起こしについても何らかのフォローが必要だったと思う。
- ・グループで活動した内容を全体で共有する場面があったほうがよい。
- ・準備段階のタスクから主活動に移行するときにもっと関連性を持たせることができればよかったです。
- ・生徒に書かせた文章をその後どのように評価、活用するのかを見たいと思った。
- ・本時の振り返りにもっと時間を割くべきであった。

(以上、本校参観者より)

- ・難しい活動もあったが、ほとんどの生徒が時間内に完成させており、レベルの高い答えも目立った。
- ・生徒の音声活動への取り組みも良かった。
- ・普段からインプットがしっかりと行われている様子がうかがわれた。

(以上、校外参観者より)

IV 学習指導案

英語科（コミュニケーション英語Ⅱ）学習指導案

日 時：平成30年11月9日（金）1校時
指導者：渡辺 伸吾
クラス：2年6組（46名）
使用教科書：POLESTAR English Communication II（数研出版）

1 単元名 Lesson 6 The Miracle of Curitiba

2. 単元の目標

- (1) クリティバ市や都市問題について自分の知っていることを発言しようしたり、聞こうしたりする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりすることができる。【表現の能力】
- (3) レルネル市長の行った改革とその効果が理解できる。【理解の能力】
- (4) クリティバ市や都市問題に関する知識がある。【知識・理解】

3 単元と生徒

(1) 教材観

ブラジルの都市クリティバの一連の改革についての説明文である。パートや段落の構成も明瞭であり、論理的に書かれている。自分が住む町や都市のあり方について問題意識を高めることができる題材でもある。

(2) 生徒観

文系クラスであり、英語学習への意欲は総じて高い。グループで話し合うことに積極的な生徒が多く、話し合いの中で教え合ったり、互いの考えについて検討したりする姿も見られる。

(3) 指導観

本文を通して、クリティバが注目される理由とレルネル市長の功績について学ばせたい。特に、個々の都市問題と解決策、その結果をしっかりと整理させたい。また、関心のある都市問題について自分の意見を互いに述べ合うような活動を設定したい。

4 単元の指導

- 1 ブラジルおよびクリティバのことについての導入、Part I の語句確認、本文の概要理解（1時間）
- 2 Part I 本文の解釈研究、音読練習、表現練習（1時間）
- 3～4 Part II の語句確認、本文の概要理解、本文の解釈研究、音読練習、表現練習（2時間）
- 5～6 Part III の語句確認、本文の概要理解、本文の解釈研究、音読練習、表現練習（2時間）
- 7～8 Part IV の語句確認、本文の概要理解、本文の解釈研究、音読練習、表現練習（2時間）
- 9 本文のまとめ、都市問題に対する意見交換（1時間）【本時】
- 10 言語材料（複合関係詞）の確認、課末問題（1時間）

5 本時の評価

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 表現の能力	C 理解の能力	D 知識・理解
都市問題に対する自分の意見を進んで述べようとしている。	自分の取り上げた都市問題とその解決策を2点以上英語で述べることができる。	クリティバ市にかつて存在した都市問題を整理することができる。	都市問題に関して適切な語彙を用いることができる。

6 本時の計画

(1) 本時のねらい

都市問題とその解決策に関して自分の意見を述べることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点 および方法
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ ・本時目標の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで簡単な会話をさせる。 ・要約文をシャドウイング形式で練習させる。 	A 適切な声の大きさで会話や音読をしている（観察）
	学習課題：都市問題とその解決策に関して自分の意見を述べることができる。		
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容の振り返り ・ブレインストーミング ・自分の意見のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの Task 1 で、クリティカルな抱えていた都市問題を挙げさせる。 ・ペアで答えを確認させる。 	C Task 1 を完成させている（ワークシート）
	具体的な発問①：What are the problems that Curitiba once had?		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの Task 2 に、思いつく都市問題の例をなるべく多く書き出させる。 ・ペア、グループで情報交換させる。 	D Task 2 に具体的な事例を書き込んでいる（ワークシート）	
	具体的な発問②：Can you think of any other urban problems?		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの Task 3,4 を完成させながら、自分の取り上げた都市問題とその解決策についてまとめさせる。 ・必要に応じて英語の表現等を指導する。 	B 任意の都市問題に対する解決策を 2 点以上述べられる（ワークシート）	
まとめ 17分	<ul style="list-style-type: none"> ・意見の発表 ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア、グループ内で発表させる。 ・時間があれば全体で意見を共有させる。 ・自己評価の記入をさせる。 	A 適切な声の大きさで発表している（観察）

理科（物理）学習指導案

日 時 平成30年11月2日（金）5校時
実施場所 秋田県立横手高等学校 物理地学講義室
対象生徒 2年3・4組（普通科理型 男子34名+女子10名=計44名）
教科書 物理 改訂版（啓林館）
指導者 佐藤 隆

1. 単元名

物理 第1部 第4章 円運動と単振動

2. 単元の目標

- ①円運動の速度・加速度の定義を身に付け、運動方程式を基に円運動を説明することができる。
- ②同一の運動であっても観測者の立場によって考え方方が異なることを理解し、慣性力や遠心力を正しく用いて物体の運動を説明できる。
- ③単振動の速度・加速度の定義を身に付け、運動方程式から単振動の周期を求めることができる。
- ④単振動のエネルギー保存則を正しく理解し、物体の運動を説明することができる。

3. 生徒の実態

普通科理型2クラスの物理選択者からなる。物理に対する関心が高く、生徒間で説明しあい疑問点を解決しようとする姿勢が見られる。正しい考え方や意義のある議論を行うことができる一方で、全体に対して意見や考えを説明するなどの表現する事に対しては消極的な様子が見られる。生徒間での議論の時間を活かしながら、その成果を全体へ発表する機会が多くなるような指導を心掛けたい。

4. 単元の指導計画

- 1) 円運動 (3時間)
- 2) 慣性力 (2時間)
- 3) 単振動 (4時間) ※本時3/4

5. 本時の目標

- ①運動方向に注意しながら単振動を観測し、物体にはたらく力を分解する方向を正しく判断して運動方程式を作ることができる。
- ②「振れ角が小さい時」という条件を基に、近似式を活用して単振り子を考えることができる。
- ③運動方程式やそこから明らかとなる加速度を基に、単振り子の周期を求めることができる。

6. 本時の評価基準

	ア. 関心・意欲・態度	イ. 思考・判断・表現	ウ. 観察・実験の技能	エ. 知識・理解
内容	単振り子に関心を持つて観測し、周期を決める要素について予測することできる。	単振り子の運動方向を正しく判断し、物体にはたらく力を分解することができる。	実験によって単振り子の周期を求めることができる。	運動方程式から単振り子の周期を数式で表すことができる。

7. 本時の展開においてキャリア教育の視点から特に重要なこと

理論を基に物事を考え、客観的な視点で判断できる力を身に付けさせる。また、予測から実験・観察を通して検証を行い、その中で自他の考えを共有しながら思考を深めていく姿勢を養う。

8. 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 7分	学習課題：周期が1秒の単振り子を作るにはどうすればいいだろうか？		
	<ul style="list-style-type: none"> ・単振り子を観測し、周期を決める要素を予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単振り子の周期を数式で表現するための方針を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単振り子の周期を決める要素を予測して挙げることができる。 【ア 関心・意欲・態度】
展開Ⅰ 25分	<ul style="list-style-type: none"> ・単振り子の物体にはたらく力を図示し、運動方程式を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・力は、単振り子の運動方向とそれに垂直な方向に分解することを意識づける。 ・単振動における運動方程式の作り方を再確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単振動の運動方向を判断することができる。 【イ 思考・判断・表現】 ・単振動の運動方程式の形を説明し、単振り子の運動方程式を記述することができる。 【エ 知識・理解】
	具体的な発問①：運動方程式を単振動の形『 $ma = -Kx$ 』にするにはどうすればいいだろう？		
	<ul style="list-style-type: none"> ・近似式から、位置と糸の長さを用いて振れ角を表す。 ・単振り子の周期を数式で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『振れ角が小さい時』という条件のもとで成り立つ近似式であることに注意する。 ・既習の内容である一般的な単振動の周期の表し方を再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近似式を活用して、運動方程式を変換することができる。 【イ 思考・判断・表現】 ・一般的な単振動の周期と対応させ、単振り子の周期を数式で記述することができる。 【イ 思考・判断・表現】
展開Ⅱ 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・実験で周期を検証する。 	具体的な発問②：近似から得た数式と、実験による振り子の周期は一致するだろうか？	
	<ul style="list-style-type: none"> ・求めた周期の式を基に、長さ1mでの周期を求める。 ・学習課題として掲げた「周期1秒」の単振り子について、実際の測定とデジタルデータの両面から検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数人で測定する。 ・誤差を少なくするため、10周期分の時間から周期を求めさせる。 ・振り子の長さを決める際にには、実験で再現できる程度の精度 ($9.8 \approx \pi^2$) でよいものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に実験と測定に参加し、理論値との比較ができる。 【ウ 観察・実験の技能】 ・実際に測定した結果とデジタルデータとの違いに関心を持って実験を観察している。 【ア 関心・意欲・態度】
本時の振り返り 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・『振り子の等時性』について理解する。 ・既習内容である「見かけの重力」との組み合わせについて、発展的な題材として提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り子の等時性が発見された状況について、科学史の観点からも触れ、関心・意欲を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単振り子の周期が糸の長さだけで決まるることを説明できる。 【エ 知識・理解】

平成30年度 横手高校公開研究授業

研究協議会記録（理科）

理科（物理） 佐藤 隆

I 日程

【研究授業】

日 時：平成30年11月2日（金）5校時
実施クラス：2年3・4組 物理選択者44名
場 所：物理地学講義室
科 目：「物理」
単 元 名：第1部様々な運動 第4章円運動と単振動 「单振り子」
授 業 者：佐藤 隆

【研究協議会】

日 時：平成30年11月16日（金）16:00～17:00

II 研究協議会参加者

鎌田孝司、岡本由佳子、小野寺庸、釜田博一、藤谷希、後藤直地、加藤華世、
佐藤隆（授業者）

III 授業者からの報告・感想・反省

単振動の3時間目の授業で、单振り子について扱った。单振動は基礎から応用まで幅が広く、多くの大学で出題される入試問題頻出の分野である。しかし、その根幹となる考え方はシンプルであり、複雑に見える問題に対しても、いかに单振動の基礎的な考え方（解法）を実行できるかという事が重要となる。したがって、今回の研究授業を含めた3時間の授業を通してその根幹となる考え方を繰り返し強調し、ばね振り子と单振り子のように状況が変わっても思考手順は同じであるという事を生徒に習得させることを目標とした。「前時の復習」として板書した内容が、これに当たる。

今回の研究授業で扱った内容であれば、（これまでの自身の経験も含め）多くの場合、1時間の授業時間を必要とせず、およそ7割程度の授業時間で終えることができるだろう。しかし、「研究授業」である事をふまえて、目標（学習課題）に対してどのように授業を展開するかという視点や、生徒に理解できたという実感を持たせるためにはどうすればいいかという視点から授業案を考え、まとまりの良い範囲と判断して今回の内容となった。普段の授業というよりは、研究授業用として作成した授業案である。さらに、生徒の活動が見え、身近な例から授業の理解につながるような演示実験を取り入れた授業にしたいとも考えた。今年度新たに購入したラボディスク（Labdisc）を活用してみようという点も、ちょっとした挑戦であった。以上をふまえ、さらにこれまでの研究授業における経験から、内容を盛り込みすぎて消化不良で終了してしまうことが多いという点や、学習課題に対する振り返りが弱いという点が反省として挙げられていたため、それを修正するためにもちようど良い分量であったかと思う。

考えさせたいポイントとして授業案に記載していた内容について、疑問を持つ生徒や違う考え方をしたという生徒が複数見られた。そこを糸口として授業を進められたことで、生徒の注意を向させ、考えるべきポイントを強調して授業を展開させることができた。生徒の反応のおかげで当初の想定通りの展開となったと言える。演示実験でのサポートやその場における反応もよく、まさに生徒に助けられた研究授業であった。

反省として、授業の振り返りがもう少し充実したものにできたら、と毎時間と同じ内容が浮かんでしまう。

IV 参観者からの感想と質疑応答

○前回の復習→授業の導入→課題提示→実際の内容と生徒の興味を誘い、「勉強してわかりたい」という気持ちに持つて行くのが上手く、本題にスムーズに入っていて大変良かった。

○日頃から先生と生徒の「質問に考えて、答えを出す」という良い関係がしっかりとできていると感じる授業であった。

○日頃から「どうすれば～だろう?」という課題を設定したいが、特に基礎科目ではなかなか思いつかない。何かコツがあったら教えてほしい。

→自分でも難しいと感じている。日々試行錯誤している。課題を設定する前には、できるだけ「その1時間の授業で何ができるようになるのか」や「どういった知識を得られるのか」という授業の結びから考えるようしている。その結びを使ってできることを「どうすれば〇〇ができるか」という表現に変えている。知識を教えることに集中したい授業の場合もあるので、毎回「どうすれば～」という課題設定はできていない。今回は研究授業用という事で、特に設定しやすい内容を選んだ。

○数式や計算で答えを求めさせる以外でも、生徒に投げ込む形で提示できる発問があつたら教えてほしい。

→公式を証明する方法はよく用いるが、今回のように公式を利用してわかるなどを調べさせる、という方法をよく使う。後はグラフや図を描いて説明させる方法など。投げ込みによって、とりあえずいろいろ考えてみるという活動ができる生徒と、「正しいものだけを書き残したい」とこちらの指示を待つ生徒に分かれてしまう事が課題であると感じている。わからなくともとりあえず考えて動いてみようという生徒が増えるにはどうしたらいいか、課題である。

○しっかりと授業について行っている様子だったが、「お客様」になってしまふ生徒はいないか?

→今回の授業で特に少なく見えた、という印象。少なからずいる。特に女子生徒は積極的に意見交換をしたり質問をしたりすることに抵抗があるので、既知の知識を活用して論理的に組み立てるような授業展開をすると、手が止まってこちらから与えられるのをじっと待つという状況に陥る。全て与えて「これをやってみよう」という指示であれば、積極的にできる。

○論理的な予想のもとで行われた実験結果に、生徒達が素直な驚きと感動を表現していた場面はすばらしかったと思う。デジタル測定器等も積極的に利用していて、勉強になった。

→デジタル機器やデジタル教材の活用についてはまだまだ不十分であると感じている。SSH関連で設備が充実しつつあるので、こうした機器を活用した授業展開を考えるヒントや実践例があれば科目によらず共有したい。

○シンプルで必要な情報が記載されており、一目で思考の過程がわかる黒板であった。

地歴公民科（世界史B）学習指導案

実施日時 平成30年11月1日（木）2校時
実施場所 2年6組教室
対象生徒 2年6組（普通科）選択者
(男子7名 女子14名 計24名)
教科書 詳説世界史B改訂版（山川出版社）
指導者 木村留衣子

1. 単元名 イスラーム世界の形成と発展

2. 単元の目標

- ①イスラームに関心を持ち、多面的・多角的に理解しようとする。【関心・意欲・態度】
- ②帝国の形成、分裂の過程を通して、帝国の推移や、周辺で起こる事象との因果関係を見出し、概念を用いて説明できる。【思考・判断・表現】【資料活用の技能】
- ③イスラームと他の一神教との共通点・相違点について、示すことができる。【知識・理解】【思考・判断・表現】
- ④イスラームが現代においても多くの信者を持つ世界宗教となっている背景を考え、説明できる。【思考・判断・表現】

3. 生徒の実態

普通科文型の選択者24名。国内外の文化への関心は概ね高く、オープンクエスチョンにも意欲的に取り組もうとしている。複数の事象を、比較や因果関係でとらえることにも慣れつつあり、適切な概念を用いて説明できる生徒もいる。

4. 単元の指導計画

- 1 イスラーム世界の形成（3時間）
- 2 イスラーム世界の発展（2時間）
- 3 インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化（2時間）
- 4 イスラーム文明の発展（2時間） 本時1／2

5. 本時の目標

- ①「イスラーム世界」の拡大と分裂を振り返り、イスラームが世界宗教化した要因や拡大後の課題について思い出す。
- ②広範囲にわたる「イスラーム世界」の共通点を挙げることができる。（相違点はどうするか）
- ③単元のまとめとして、イスラーム文明の普遍性について、説明できるようになる。

6. 本時の評価規準

項目	ア. 関心・意欲・態度	イ. 思考・判断・表現	ウ. 資料活用の技能	エ. 知識・理解
内容		・イスラームの特質について、既習事項などから見つけ出し、挙げることができる。		・イスラーム世界の拡大と分裂の過程を思い出し、自分の言葉で説明できる。

7. 本時の展開においてキャリア教育の視点から特に重要なこと

自らの意思を持ち、自国や地域の未来を選択する力と姿勢を身につけさせたいと考えているが、世界の大部分の社会の土台となっている一神教の理解なしに、現代の世界を読み解くことはできない。

本単元では、もっとも新しい一神教であるイスラームの成立および13世紀頃までの発展を学ぶ。イスラーム

とは何かに繰り返し触れながら、イスラーム（という生き方）への理解を深める。本時では、世界宗教たるに至った条件から、イスラームの特質について気付かせたい。グループ単位でまとめさせることで、学び合いの力を全体で共有しつつも指導者は方向性を示すにとどめ、（最初から自分の言葉ではまとめられない生徒にも）他の意見を参考にして、概念を用いてまとめる力を個々に身に付けさせたい。

8. 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 8分	<p>大きな問い合わせ：なぜ、この単元だけ「イスラーム世界」というのか。（他の文化圏と異なる扱いである理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目次を見て、他の単元との名称の違いに着目する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要であればヒントを出し、あまり時間をかけないようにする。 	
展開 15分	<p>予備問①：どこまでが「イスラーム世界」なのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで略地図に記入する。 ・「イスラーム」拡大の過程を思い出す。（前時までの既習事項の復習） 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム帝国の拡大の過程を略地図を用いて簡単に説明する。拡大に焦点をあて、地方政権に触れない。 	<p>エ. イスラーム世界の拡大を思い出せたか。</p>
	<p>発問①：広範囲にわたる「イスラーム世界」の共通点は何か。</p>		
	<p>学習課題：「イスラーム文明」の特徴その1（普遍性）を見つける。</p>		
II 25分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで書き出す。 ・各グループで出た意見を全体で共有する。 ・自分の言葉でまとめる。または出た意見をメモする。 ・説明を聞く。 ・プリントに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域の既習事項や現代のニュースなども参考にしてよい。 ・具体的な問い合わせ（町にどんな人がいる、何がある）をヒントに出す。 ・そう考える理由もできるだけ加えさせる。 ・分類、整理する。鍵概念が出てくれば注目させる。 ・イスラーム文明の共通点をまとめる。 	<p>イ. 体験、時事、既習事項に例えたり、比較したりできるか。</p> <p>イ・エ. 概念を適切に用いてまとめられるか。または、自分の言葉でまとめられるか。</p>
	<p>発問②：「イスラーム世界」で、知識・技術が普及しやすかった背景（条件・環境）は何か。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで書き出す。 ・出てきた条件をメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既出のキーワードをヒントにさせる。 ・キーワードが出てきたグループがあれば、順次紹介する。 	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて概念を用いる。 ・可能なら、次につなげる問い合わせ（アラビア語中心だが、非アラブも多くなつたことなど） 	

※副教材 グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）

平成30年度横手高校公開研究授業

研究協議会記録（地歴公民科）

地歴公民科主任 佐々木 満

I 日 程

【研究授業】

11月1日（木） 9：45～10：40（2校時）

クラス：2年6組

科 目：世界史B

単元名：イスラーム世界の形成と発展

指導者：木村留衣子

【研究協議会】

11月5日（月） 13：30～14：25

II 研究協議会参加者

高橋史、黒川陽介、木村留衣子（授業者）、打矢泰之、高橋直樹、佐々木満

III 授業者からの報告

- 「なぜ、この単元だけ「イスラーム世界」と言うのか」という問い合わせを契機に、イスラーム世界の特徴である「普遍性と多様性」を捉えさせる授業を行った。
- 生徒は活発に各活動に取り組んでいた。略地図を用いた作業で既習事項を確認した際には、完璧にできているグループはなかったものの、こちらの予想よりも良い出来であった。
- 板書をグループワークで出たキーワードをつなげていく形にしたが、あまり計画的にできなかった。
- 後半に、生徒が板書を見て自分のプリントに授業内容をまとめるような時間の取り方をすればよかったです。

IV 参観者からの感想

○学習課題の提示・確認

- 非常に大きいテーマの授業だと感じた。
- 学習課題を最初に明示すべきであった。

○思考判断

- グループ学習の際に時間管理のためにタイマーを使った方が良い。
- 生徒はとてもよく鍛えられていて、授業者とのやりとりや作業切り替えのスピードの速さについていっていた。
- 授業の最後に、イスラーム文明の普遍性についてまとめた場面では、生徒と内容をもっと共有できる方法をとるべきだったと思う。

○言語活動

- ・生徒が話し合いや地図を用いた作業の際に主体的・積極的に活動していた。
- ・生徒が、授業者とのやり取りの内容、速さの点で鍛えられていると感じた。
- ・今回の授業は、話し合い等の形式を取ったことによって知識の「抜け、漏れ」は多くなるが、その一方で非常にリズムが良かった。

○板書の工夫

- ・マグネットシートでグループの意見を集約し、黒板に貼って共有したり、略地図で作業させたものを黒板に貼って添削するといった点が優れていた。「授業の流れの可視化」ができていた。
- ・授業者はこの研究授業だけでなく、普段の授業からマグネットシートを使用した授業を行っており、非常に参考になった。
- ・まとめの場面で行われた、ブレインストーミング的な板書が効果的だった。
- ・マグネットシートの文字が後ろの席の生徒からはやや見にくく思えた。
- ・黒板に貼っていたマグネットシートと地図を途中ではがしていたが、最後まではがさずにそのまま生かして欲しかった。

○その他

- ・授業を受けている生徒の顔がいきいきしていて、授業者との信頼関係を感じた。
- ・普段の生徒は地図が苦手で地理的知識を踏まえた思考がなかなかできないと感じる。
- ・今の生徒は話し合いが上手く、話し合いの中で誤った解答を正解に訂正する力を持っている。その一方で考え方を定着させるのが難しく、どういう授業をすれば生徒の力になるのかと考えている。
- ・「オトナの授業＝生徒を大人扱いした授業」で、参考にしたい授業だと感じた。課題としては、話す時に大切な語句を強調したり、活動の流れが速かったので、統一感をもたせるために指示を徹底させるべきだと思ったが、自分が普段生徒を「子ども扱い」しているから、そう感じるのかも知れない。生徒を高みに引き上げる授業だという印象だった。
- ・オープンクエスチョンをもとに授業展開をするには、教師の高い力量が必要で、授業者の力を感じた。

V 研究テーマ「生徒の探究心を促すには発問にどのような工夫をするか」について

- ・学習課題を「なぜ～なのか」という問い合わせの形にして、途中の発問は授業の最後に、その答えを使って学習課題の問い合わせを解けるように設定する。
- ・最初に授業の結論を示して、「なぜ、となるのか？」と考えさせる授業にする。一人の生徒の解答について、別の生徒に「この答えをどう思う？」と問う。敢えて最初に学習課題を提示せず、途中で提示する。
- ・現代社会の授業で、答えのない問い合わせを生徒に考えさせ、書かせたものをまとめてプリント化し、生徒に配付して更に考えさせる。「アファーマティブアクション」や「トロッコ問題」についてはディベートを行った。

- ・いかにバリエーションをつけるかが大切で、その時々に合ったやり方があるはず。ある問い合わせかけ、ペアで話し合わせる。Aは「なぜ、こうなるのか」と問い、Bは「こうだから」と答えるが、Aはその答えをリピートした上で、さらに「なぜ～なのか」と問う。このやり取りを5回繰り返す活動を行った。
- ・本校生徒は、一問一答の力はある。最初に知っている事を聞いて、「それはなぜ？」と問う形で授業をスタートする。
- ・最も求められるのは、現実社会と絡めた問い合わせだと思う。既習事項についての論述問題を生徒に作成させる活動をしたことがある。

M D S 基礎 学習指導案

日 時：平成30年11月5日（月） 3校時
実施場所：秋田県立横手高等学校 パソコン室
対象生徒：1年4組（39名）（男子19+女子20）
指導者：鈴木亘、今野栄一

1. 単元名 データの収集・分析
2. 単元の目標 自ら関心のあるテーマ設定を行い、フィールドワークから適切なデータ収集や統計的な分析ができる。
3. 生徒の実態 生徒は素直で、真面目に授業に取り組んでいる。また、グループワークにおいては協力して学ぶ姿勢が身に付いている。
4. 単元の指導計画 班決め・テーマ決め（3h）
アンケート用紙の作成（4h）本時2/4
アンケートの依頼・発送作業（2h）
グループごとに中間報告・相互評価（1h）
5. 本時の目標 アンケート用紙の作成経緯や質問項目の説明を通じて発表能力や聞く態度を養い、他のグループからのアドバイスを受け入れながらよりよいテーマとアンケート作成を行う。
6. 本時の評価基準

項目	ア 関心・意欲 ・態度	イ 思考・判断 ・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
内容	アンケート作成に深くかかわり、話し合いや発表に積極的に参加している	仮説をしっかりと立て、それに沿ったテーマ設定・アンケート作成ができる	情報機器を使ってグループで協力しながらアンケート用紙を作成できる	仮説を実証できるアンケート項目を設定している

7. 本時の展開においてキャリア教育の視点から特に重要なこと

アンケート用紙の作成経緯や質問項目の説明を通じて自己表現力を、他のグループの発表から異なった視点や考え方を学び、受け入れることで人間関係形成力を身につける。

8. 本時の展開

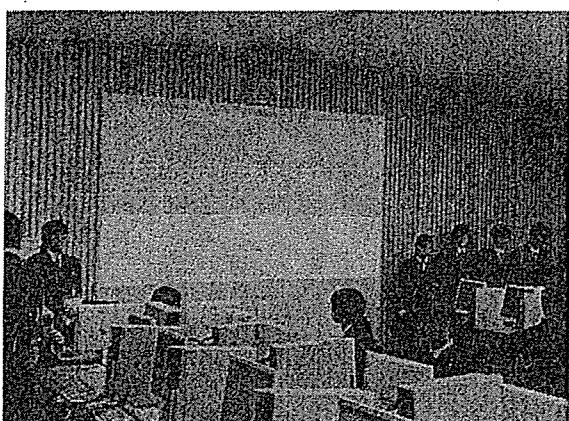
	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 5分	F T D C の流れを確認し、現在行っている活動の確認 本時の活動内容の確認	全体の流れを把握させながら計画的に作業させる	F T D C の流れをしっかりと把握している 【ア関心・意欲・態度】
展開 35分	相互評価シートの配布	良い点や改善すべきアドバイスを入力し、マイナス評価をつけないことを確認させる	各班の取り組みを理解し、適切なアドバイスすることができた 【イ思考・判断・表現】
(10分)	班ごとに発表内容の確認	友だちの意見を聞きながら前向きな意見が出せる雰囲気をつくる	積極的に自分の考えを発表できている 【ア関心・意欲・態度】
(25分)	班ごとにアンケート用紙作成の経緯や質問項目の設定理由をプレゼンテーションする	発表ごとに評価シート入力し、各班がスムーズに発表できるようにする	わかりやすい発表ができた 【エ知識・理解】 【ウ技能】 今後の改善に活かせる提言ができた 【イ思考・判断・表現】
本時の振り返り 15分	評価シートの集計 本時の振り返りと次時に向けた取り組みを確認	リアルタイムで集計結果を表示し、解決すべき課題を確認させる	集計シートの見方が確認できた 【ウ技能】 記入内容を理解し、アンケート作成に更なる関心が持てた 【ア関心・意欲・態度】

平成30年 横手高校公開研究授業 研究協議会記録（MDS基礎）

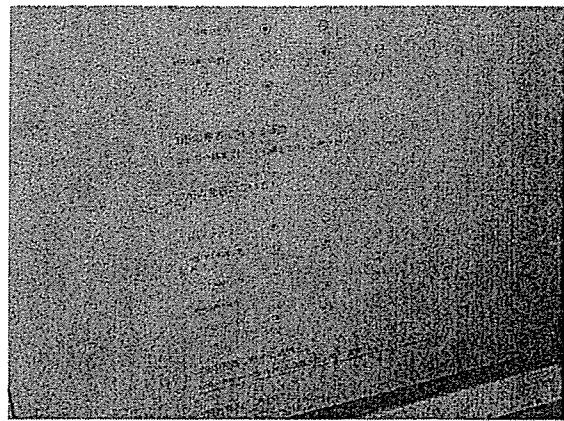
平成30年11月5日（月）本校において公開授業を行ったが、研究協議会は実施できなかったので、その後の経緯と感想等を述べさせていただく。

上記研究授業の後、アンケート用紙が完成したチームから横手駅やワイワイプラザ前、ふるさと村等での街頭アンケートを実施したり、近隣の小中高等学校や本校生徒へアンケートの依頼を行ってデータ収集した。当初予定では11月下旬には回収が終了してデータ分析に入る予定だったが、アンケート作成に予想以上に時間を要し、12月下旬においてもアンケート回収できないチームが出てきた。雪が降る時期での街頭アンケート実施を避けるためにも次年度以降は全体計画をもう少し早めにしなければならないと反省している。

その後、データ分析とプレゼン資料の作成、ポスター発表の準備を進め、1月21日～23日の授業でクラス内発表会を行った。生徒にもグーグルフォームで作成したループリック評価シートを配布して発表を評価させた。



【クラス発表の様子】



【生徒に配布したループリック評価シート】

クラス発表会で評価の高かったチームをクラス代表とし、2月1日（金）の午後に体育館で7チームの口頭発表と全チームのポスター発表を行った。秋田県立大学の嶋崎先生からの講評や発表会後のSSH運営指導委員会での話し合いからも、本校でのSSHへの取り組み方に理解が得られた実感があるが、さらに内容の精選を行い、より充実したものにしていきたい。



平成30年度 高等学校初任者研修報告

国語科 成田 陽香

1. はじめに

初任者研修は、総合教育センター及び高校教育課による校外研修と、本校内で行われる一般研修及び教科研修により行われた。研修のなかでも主立ったものを取り上げ、以下にまとめた。

2. 辞令交付式・校外研修「教職基礎Ⅰ」

- 実施日 平成30年4月2日（月）
- 場所 県庁第二庁舎・県地方総合庁舎

県庁大会議室にて行われた辞令交付式は、採用者が指名点呼され、代表者が辞令を受け取る形式で行われた。その後、教育長職務代理者より講話をしていただいた。少子化が進む秋田県で、ふるさとを支える子どもの育成を担う立場にあることを改めて自覚した。

続いて総合地方庁舎にて、校種別オリエンテーションが行われた。

はじめに指導班の方より、教育公務員としての心構えについてお話ししていただいた。内容は、教員の失敗は生徒だけでなく教育界全体に悪影響を及ぼすということ、世間の厳しい目がある中で期待以上の成果を出さなくてはならないということであった。

次に管理班の方より、心構えや教員に求められる資質についてお話ししていただいた。内容は、どんなときも教育に携わる人間であるという自覚をもつということ、常に学ぶ姿勢をもつということ、「厳しさ」と「優しさ」、「自信」と「謙虚さ」をもった先生でいてほしいということであった。加えて事故の未然防止と起きたときの初期対応についてもお話ししていただいた。

教育に関わることの責任を改めて感じる研修であった。なかでも、教員として生徒に、生きるために必要な資質、能力を身につけさせることが必要というお話が印象的であった。昨年度の自分の授業を振り返ると、教科書の文章の内容について教えがちになり、学校外や卒業後の生徒のことを考えることがほとんどなかったように思う。「国語」という、生活の基礎となる日本語を扱う教科の教員として、どのような授業をすれば目の前の生徒に生きるために力を身につけさせられるかを考えながら教材研究に励みたい。

今後の研修は、事前に普段の生活で生まれる疑問や課題を解決する意識をもって臨みたい。

3. 一般研修「本校の経営方針及び教育目標」

- 実施日 平成30年5月1日（火）
- 場所 本校校長室

校長先生より、「本校の経営方針および教育目標」についてお話ししていただいた。

はじめに学校要覧等をもとに、本校の教育方針についてご説明していただいた。今年度の重点目標は「人材育成と自己実現」である。四年制大学への進学率が高い本校ではあるが、生徒には何のために進学するのかという意識をもって生活してほしいというのが校長先生のお考えであった。

次に、本校の特徴である理数科や、理数科設置後の経緯についてお話ししていただいた。かつ

ての理数科には文系の生徒も多くいたことに驚くとともに、そもそも自分が高校生になる以前の県の高校入試制度の変化について知らないことに気づいた。

最後に、本校の定時制についてお話ししていただいた。全日制、定時制いずれも、生徒と保護者のニーズに向き合い、選んでもらえる学校にしていく必要があるという。「校内生活体験集」を読み、全日制の生徒以上に様々な事情がある生徒がいることを実感した。

今回、地域社会との関わりや社会的刺激が乏しいという、本校の現状についてのお話が印象的であった。本校は勉強と部活動に力を入れるため、地域の行事に参加する機会の多い高校、たとえば商業、工業高校等に比べて社会と関わる機会が少ないそうだ。確かに社会と関わる機会が少ないままでは、卒業後の具体的な目標や、学んだことをどのように社会に還元するかということを考えにくいだろう。しかし、だからといって商業、工業高校と同様の取り組みをしては、生徒や保護者に求められる本校の特徴が薄れ、中途半端な状態になってしまうかもしれない。今まで学校の特徴や運営について考えることがあまりなかったが、今回の研修の中で、運営には過去の取り組みをそのまま行うだけでなく、生徒と保護者のニーズや、社会の流れなど、様々なことを考慮する必要があることを学んだ。

4. 校外研修「授業研修A」

●実施日 平成30年6月20日（水）

●場所 県総合教育センター

授業作りについて、模擬授業と協議を通して学んだ。

私の模擬授業については、授業プリントや、机間指導での声のかけ方について褒めていただいた。一方、学習活動の指示は視覚的にもわかるようにした方が良いこと、1時間内の発問数や学習活動を減らした方が良いことなどを指摘していただいた。授業を行いながら、説明がうまく伝わっていないことや時間が足りないことに対する不安があったが、生徒役の先生方も同じことを思っていたようである。また、話し合い活動を取り入れた模擬授業を行ったが、予想外の部分に着目していたり、多様な考えが出たりと、教材研究の不足を感じた。今後実際に使う予定の授業であるため、今回気づいたことを改善し、より良い方法で授業を進めたい。

他の先生方の授業は、教科は違っていても自分の授業に取り入れられそうな工夫が多くあり、大変参考になった。ＩＣＴも用いることで理解が深まるこども感じ、国語ではどのような用い方ができるか考えたいと思った。また、机間巡視の際に適度に声をかけられることは、思う以上に嬉しいものだと生徒役になって気づいた。この点については、各先生の持つ雰囲気も大きく関わるよう思う。生徒が安心できる声かけ、理解や思考を深められる声かけはどのようなものか考えたい。

同じ初任者の先生方に比べ、力が足りていないと思う部分もあり、今後の授業作りに対する意欲向上につながる研修であった。

5. 校外研修「PA研修」

●実施日 平成30年8月1日（水）～2日（木）

●場所 県立岩城少年自然の家

PA（プロジェクトアドベンチャー）の体験を通じ、集団における人間関係のあり方や体験学

習等について学んだ。

今回実際にPAを行い、生徒の視点から学んだことは本当に多くあったが、そのなかでも特に印象的だったのは、メンバー全員で試行錯誤し課題を解決することの楽しさである。今回様々な課題に挑戦したが、失敗したり、1度成功したりするたびに、ファシリテーターの方が「どうすれば上手くいくか。より早く解決できるか」と何度も声をかけてくださった。そのおかげか、2日目には自然に解決にむけて班内で話し合う雰囲気ができていたと思う。新たな提案が出るたびに、すぐに実行するという体験がとても楽しかった。自分の意見を他の人に実行してもらえることは自己肯定感を持つうえで必要だと改めて感じた。また、一人では思いつかないような提案もたくさんあり、集団で話し合うことの重要性を実感した。

その他、信頼し合える安心感を覚えたり、メンバーが声をかけ合いながら協力することや、何度も活動を振り返りそれを共有すること、自分の行動に責任をもつことの重要性などを学んだりすることができた。いずれも人と関わるうえで不可欠なことだとわかつっていたつもりだが、実際の活動を通して学ぶことで重要性を再確認することができた。

また、PAやPA理論の学習を通し、教員の視点から学級経営に活かせそうなことも学ぶことができた。「アイスブレーク」は、初対面のクラスメイトとの関係作りのために用いることができるだろう。また、居心地の良いクラスを作るための提案を書き出し全員が確認する「ビーイング」もそのまま使えそうだ。

一方で、今回私たちが感じたような仲間を信頼する気持ちや、課題解決のために協力し合うことの大切さを校内で学ばせるための方法は、今後考えていきたい課題である。私自身が上述したようなことを感じられた理由の一つとして、普段とは違う場で体を動かしたり、身体の触れあいがあったりしたことがある。しかし高校生となると、クラスメイトと手をつないだり身体を触れあわせたりすることに抵抗を覚える人もいると思う。今回の活動がそのまま学級でも実践できるわけではないことは念頭に置き、同じような気持ちを味わうための方法を勉強したい。また、PAのねらいとして「居心地の良いクラスは人から与えられるものではなく、一人一人が責任を自覚し行動していかなければならないことを学習する」というものがあった。しかし、居心地の良いクラスに対する理想像や、コミュニケーションを取ることに対する意欲は生徒それぞれだ。お互いの価値観や得手不得手の違いを認めさせながらも、最低限の集団のルールを守らせるために、教員としてどのように働きかけるべきか考えていきたい。

2日間の活動で、教員として学校生活に活かせることを学んだだけでなく、一人の人間として社会と関わるうえで私ができること、できていないことを見つけることができた。この気持ちを忘れずに勉強し続け、より良い生徒との関係を作っていくたい。

6. 校外研修「初任者研修講座V」

●実施日 平成30年9月5日（水）

●場所 県総合教育センター

「中学校との関連を踏まえた授業作り」というテーマのもと、中学校国語科の先生も交えて模擬授業とそれに関する協議を行った。

初めに中学校の先生から、3年生を想定した説明文の授業を見せていただいた。今回は文章を比較し、説得力を与える構成を学ぶという内容であった。思う以上に発展的な内容だと思ったが、

比較することは学習指導要領にもある指導事項であるという。これまであまり小、中学校の部分を読むことはなかったが、目の前の生徒の既習事項を知るためにも参考にする必要があると感じた。また、グループ活動や発表にホワイトボードを用いる方法や、本文を印刷して掲示し、適宜示す方法など、生徒が学習に集中しやすい教具の工夫があった。

続いて私と横手城南高校の先生が古典の模擬授業を行った。中学校の先生からは、高校入学前に身につけさせるべき古典知識があることを改めて感じたという声が聞かれた。協議の際、中学校の教科書の古典の授業について教科書を見せてもらひながらうかがった。小学校から継続して音読を重要視していることに加え、簡単な文法や語句も扱っているそうだ。しかし、高校とは大きく異なる部分も多い。今後、特に1年生の授業を担当する際には、既習事項を確認するとともに、興味を持たせられる導入を心がけたい。

今後も機会を見つけ、他校種の授業を参観したい。

7. 校外研修「初任者研修講座VI」

●実施日 平成30年9月14日（金）

●場所 本校教室、会議室

加賀谷主任指導主事に来校していただき、授業を参観していただいた。

研究授業では、清少納言の「中納言参りたまひて」（『枕草子』）を扱った。授業の前半に今回初めて確認する二方面への敬語と現代語訳を説明し、後半にグループで話し合いながら登場人物について考えるという計画であった。しかし、実際は前半の説明に時間がかかり、人物像の読み取りはほとんど行うことができなかつた。

協議会では他の国語科の先生方より、文法書も適宜全員で確認しながら丁寧に進めでいたことや、ペアやグループで話す雰囲気ができていたことなどを評価していただいた。課題として、第1に敬語の扱い方を指摘された。始めに敬語の基本について確認した方が二方面への敬語の理解がしやすかったという改善案があった。第2に学習課題、活動の多さが指摘された。訳の穴埋めプリントをより活用すべきことや、敬語からも人物関係の読み取りにつなぐことができるということが提案された。また、活動が多くなると評価事項も多くなり、教師自身が大変になってしまふという。

古典の授業をするうえで、現代語訳と内容の読み取りの扱いのバランスについていつも迷う。現代語訳や文法の確認は、十分に理解している生徒にとっては退屈な時間になってしまうのではないかという不安があるためだ。加賀谷主任指導主事や他の先生方からは、正確に内容を読み取るために訳や文法を確認するのであり、どちらも大切であることや、理解している生徒については友達に教えるという部分で活躍する場を設けることができるのではないかということを教えていただいた。

今回協議会で評価していただいた点については今後も継続して取り入れていきたい。課題については、他の先生方の授業を見学させていただきながら、現代語訳にとどまらない発問の仕方や、1時間内の学習活動の量と評価事項について学びたい。

8. 校外研修「授業研修B」

●実施日 平成30年10月17日（水）

●場所 秋田明徳館高校

秋田明徳館高校にて、定時制、通信制の高校の特徴や生徒の様子について学んだ。

はじめに「生活体験発表会」の秋田県大会を参観した。今まで定時制、通信制に通う生徒と関わったことがなかったため、今回発表を聞くことを楽しみにしていた。発表者それぞれに苦しい経験があったようだが、自分なりに将来の夢や夢中になれることを見つけ、それを堂々と発表している姿に感動した。生徒の話から特に印象的だったことが2点ある。

第1に、親や教師などの大人の言葉は生徒の心に非常に強い影響を与えるということだ。発表のなかで、苦しい思いをする生徒に対し、応援したり具体的な行動を提案したりする大人だけではなく、生徒の様子を時間をかけて見守る姿勢を見せる大人もいた。生徒の状況や関係性によってかけるべき言葉は変わるだろう。一人の大人として私自身の本音を話すことも必要だと思うが、それが生徒を追い詰めてしまわないよう、目の前の生徒が必要とする言葉や支援を冷静に考えなくてはならない。また、大人の言葉に助けられた生徒がいる一方、傷つけられたという生徒も多かった。その言葉の中には、生徒への期待から思わず出たものがあるだろう。しかし、生徒も大人と同じ一人の人間であり、大人の期待を押しつける対象ではない。期待することは素晴らしいが、その言葉が生徒の負担になっていないか、また生徒がその期待をただ受け入れるだけでなくはつきりと自分の気持ちを表現できるような関係であるかを日々振り返る必要を感じた。更に、他の人は耐えられたという前例に頼るのでなく、目の前の生徒に向き合うことが不可欠だろう。

第2に、自己嫌悪に陥った経験がある生徒が多くいたということだ。そのうちの多くは、「普通」とされることができない自分に対する嫌悪であった。しかし、今回の発表でもあったように、「普通」になれないことに悩む生徒は一人ではない。同級生と比べた「普通」に囚われすぎてはいけないこと、そもそも「普通」とは何なのかを日頃から考える機会を持つことが必要だと感じた。

発表を通して、生徒は家庭と学校という限られた環境を中心に毎日を過ごしていること、それを苦しく思う生徒もいることを再確認した。しかし、世界は家庭と学校だけではなく、様々な選択肢や生き方がある。そのことを授業や日々の会話を通して伝える教師になりたい。

授業参観では、服装の違いにはじめは戸惑ったが、学習に向かう姿勢は全日制の生徒と同じであった。先生方は少人数であるぶん、生徒の個性をふまえて授業をされていたように見受けられた。また、生活体験発表を聞いたことで、定時制、通信制に通う生徒は入学までの背景が多様なぶん、学力の層も広いことを知った。

最後に畠山校長より、通信制教育とその課題について伺った。通信制高校の設立当初は高校進学率も低く、働きながら学びたい人が多かったという背景があった。しかし、現在通信制を選ぶ理由は様々であり、多様なニーズに応える必要があるという。また、それに伴い履修方法も学校によって柔軟に対応していることを知った。加えて明徳館高校の学習形式やリポートについても伺った。直接学校で授業を受ける回数が少ないぶん、生徒自身が自力で学習する必要があるという。予想以上の量と内容に驚くとともに、通信制を選ぶには自己管理に努めるという意思がなくては厳しいと思った。

講話を通し、学ぶ手段は全日制高校に通うだけではないことを改めて実感した。学びたい意欲を持ちながらも様々な理由で高校を続けられない人、学習に困難を抱える人がいる。全日制の教員として生徒が毎日学校に来ることができるよう環境を整えたり、関係をつくったりすることは当然のことである。一方で学校に来ることが難しい生徒のためにも、通信制高校の特色を知ら

なくてはならないと感じた。

9. 校外研修「特別支援学校訪問」

●実施日 平成30年10月24日（水）

●場所 横手支援学校

横手支援学校にて、特別支援教育について学んだ。

はじめに文化祭予行練習を参観した。先生、生徒ともに表情豊かにコミュニケーションをとっていた。高等部の生徒が下級生に声をかけたり日頃の活動を発表したりする姿は下級生の見本であり、学年を越えて行事を行う良さを感じた。

続いてのキャリア教育実践研究発表では、生徒が日頃の活動について堂々と発表していた。先生方の話にもあったように、地域とのつながりを大切にしていることを感じた。

学校説明と協議では、松井教頭による、強みを活かした指導をして、生徒が「良かった」と言われる機会を増やすというお話が印象的だった。注意したくなるような生徒の行動には表面的にはわからない理由や背景がある可能性があり、一方的に注意するだけでは何も解決できない。また、注意する時は改善案も伝えることで、生徒はより良い行動を取ることができるという点も今後留意して指導したい。

私も含め、障害をもつ人との接し方に迷う人がいると思うが、日常生活のなかで困難を感じる行動が異なるだけであり、その困難に合わせて力を貸し合えば良いだけだと感じた。先生方の話を聞きながら、そもそも支援学校とそれ以外の学校にわたる現在の制度が「障害者」への偏った見方や考え方、接し方の戸惑いを生んでしまっているのかもしれないと思った。

高校も特別支援学校も、目の前の生徒の個性や背景を知ったうえで向き合い、社会人として自立した生活を送れるよう指導するという点は共通していると感じた。授業を通しての生徒指導や、休み時間などの些細な会話が信頼関係を作るうえで大切だと改めて思った。そのような関わりを通して生徒の個性を理解し、全員が責任感を持って活躍できる場を作りたい。

10. 校内研修「研究授業と協議」

●実施日 平成30年11月5日（月）

●場所 本校教室、相談室

22組にて小説『バックストローク』（小川洋子）の研究授業を行い、その後国語科の先生方と協議を行った。全6時間のうちの4時間目である。人物関係を読み取ったうえで「弟」の心情について解釈し、自分の言葉で根拠とともに表現するという授業構成とした。

協議会では良かった点として、教員と生徒、生徒と生徒の雰囲気や、関係性を図示する活動を挙げていただいた。

改善点として主に、まとめとなる学習活動に対する答えを他のグループの人と交換する活動について、「指示が曖昧で恣意的な読みにとどまったこと」と「グループによっては同じ意見しか聞くことができなかったこと」を指摘していただいた。前者については様々な意見を認める指示はしたが、根拠を明確にすることは伝えられなかった。そのため恣意的な読みにとどまった生徒も多く、生徒同士で根拠を検討し合う活動には至らなかった。後者については、まとめに十分な時間が取れず、クラス全体での意見の共有ができなかったことが原因である。前半の活動を精選し、

2、3人の生徒の意見を発表してもらう時間を設けたかった。この点については、次の時間に生徒の意見をまとめたプリントを配付することで対応する。

英語科の先生や他校の先生にも参観していただき、感謝している。今回の教材研究や協議を通して、他の先生方の豊富な知識や経験を感じるとともに、ひとつの教材にも複数のアプローチの仕方があることを改めて実感した。今後はこれまでに自分がやったことがない授業構成や活動方法に挑戦したい。

1.1. 校外研修「授業研修C」

●実施日 平成30年11月14日（水）

●場所 県立秋田西高校

横手城南高校の小武海先生とともに、秋田西高校にて漢詩の研究授業と授業参観、協議を行った。

私の授業では、後半のグループ活動でただ意見を話すだけでなく、相手の意見を自分の考えの参考にしようと耳を傾ける生徒の姿が印象的であった。時間が足りず、クラスの意見を共有、集約する活動に至らなかつたことが反省点である。この点については、後日全員の考えをまとめたプリントを配付することで補足とさせていただいた。当日の話し合いや回収したプリントから、漢詩の言葉をもとに自分なりの言葉で工夫して心情を表現しようとする生徒がいたことがわかつた。一方で、はじめの学習活動を十分に活かしきれなかつたような生徒もいた。学習活動のつながりを強調した授業の展開が必要だったと思う。

小武海先生の授業では、序盤から先生と生徒、生徒と生徒間に話し合いやすい雰囲気を作り、的確な指示のもと活動させる様子が印象的であった。作者の生涯をまとめたプリントを掲示する方法や、ホワイトボードを用いて意見をまとめさせる方法などはぜひ取り入れたい。また、今回取り上げた2つの詩の共通点から心情を考えるという学習活動も参考になった。「そもそもなぜこの詩（作品）が取り上げられたのか」という部分を明確にしたうえで授業することは、授業意欲の喚起にもつながるだろう。

「国語総合（古典）」の授業参観では漢詩の基礎知識について確認する部分を見せていただいた。「漢」や「唐」などの言葉に戸惑う生徒がいたように、高校1年生にとって国、時代、人名の区別は難しいと思われる。中学校での既習事項を確認しながら丁寧に進める必要を感じた。「国語総合（現代文）」の授業参観では、詩人の生涯を学習する部分を見せていただいた。パワーポイントでの補足説明や、朗読、CMも用いながらの作品紹介により、生徒が「次はなにが話されるのか」という気持ちで集中して学ぼうとする姿勢が印象的であった。

授業に関する協議会では、2人の授業に共通して、授業のゴールを明確にもつことが課題としてあげられた。漢詩から心情を読み取るという学習であったが、ある程度は背景知識やヒントを与えることも必要だとご指摘をいただいた。私は文学作品となると、生徒の考えばかりを求めてしまうが、意見が過度に散漫し收拾がつかなくなることを防ぐためにも、教員側から話し合いの視点を絞ることも大切であると感じた。また、視点を絞ることは限られた時間を有効に使ううえでも必要だという。普段の授業でも話し合いの課題を欲張りすぎ、その結果振り返りに時間が取れていいないことを反省した。

その後、櫻田先生より日頃の授業で悩む部分について、様々な手法を教えていただいた。現代

文、古典とともに、ただ本文の言葉をなぞって解説するだけでなく、実際に自分で作品を作ることで作品構成や表現の意図を学んだり、答えが明示されていない問題について討論したりするなど、生徒自身の活動から何かを学ぶという方法がたくさんあった。どこまで教員が説明し、どこから生徒自身に考えさせるか、また、生徒の考えに対しどのような補足をするか、教材研究の段階で計画する必要を感じた。

校外の先生方から指導していただく貴重な機会となった。今回学んだことを忘れず、今後もより良い授業作りに励みたい。

12. 校外研修「初任者研修講座IX」

●実施日 平成31年1月9日（水）

●場所 県総合教育センター

今年度最後の校外研修であった。

はじめの「いじめ・不登校」「特別活動」については生徒指導に関する講義、演習が中心の研修であった。いくつかの事例に関し、大まかな対応の流れはわかっていたつもりだったが、いじめの現場を目撃した場合など、その場での対応については理解不足な部分もまだあることに気付いた。また、教師の注意を聞いてもらうには、日頃から信頼されていなくてはならないというお話を聞き、常に見られ、評価されているという意識を持つ必要を改めて感じた。

続いての「学校組織の一員として②」では、現段階で自分が持っている資源を考えながら、来年度の目標を考える良い機会となった。来年度以降は今年度以上に生徒と関わる機会が増えるだろう。謙虚に学び続ける気持ちを持ちながらも、自信をもって教科指導をし、時には毅然とした態度で指導にあたれるような教員となりたい。

閉講式では嵯峨康弘主幹より、「どの生徒にもわかる授業をする」、「若さを強みに失敗を恐れず挑戦する」、「逃げずに子どもと向き合う」という激励の言葉をいただいた。また、2年目以降は待っているだけでは誰も教えてくれないという。わからないことや不安なことは積極的に周りの先生方に聞く姿勢をもちたい。

校外での初任者研修は今回で終了となる。熱心に指導してくださったセンターの先生方、切磋琢磨し合えた同期の先生方のおかげで大変充実した研修となった。様々な場面で学んだことはもちろん、自分の未熟さに対する悔しさ、歯がゆさも初心として留め、今後も信頼される教員となるために努めたい。

13. おわりに

校内、校外たくさんの先生方のおかげで、学習指導はもちろん、学校運営や生徒指導など多くのことについて理解を深めることが出来た1年間であった。お忙しい中でお時間を割いてくださった先生方に感謝申し上げる。自分の未熟さを感じる場面が多くあった。今後はその悔しさを忘れず、より教員として成長していくよう学んでいきたい。

高等学校中堅教諭等資質向上研修を終えて

地歴公民科 高橋 直樹

I 校内研修

はじめに、研修に向けての心構えについて校長先生からご講話いただき、その後、教頭先生からは法規に関する事例研究について、教務主任からは教育課程と評価のありかたについて、生徒指導主事からは生徒の問題行動に関する事例研究について、進路指導主事からはキャリア教育についてなどをご教授いただいた。地歴公民科主任からは、授業実践に関する具体的なご指導をいただいた。

II 校外研修

・ 1 共通研修【平成30年6月29日（金）】【平成31年1月10日（木）】

中堅教諭として、担当HRだけでなく、学年や学校、また若手教員への助言など、担わなければならない役割を改めて考えさせられた。自身の力量をさらに高める必要を感じた。

・ 2 教科指導等研修【平成30年8月3日（金）】【平成30年9月3日（月）】

秋田県立秋田西高等学校において研究授業（9月3日）を行った。指導案は別ページに記載。

3 生徒指導等研修【平成30年9月7日（金）】【平成30年10月23日（火）】

「いじめの理解と対応」についての傾向を知ることができた。専門機関や第三者的な立場の方々の協力をいただきながら、今後も目の前の生徒のために全力を尽くしたいと感じた。

また、キャリア教育、情報教育、道徳教育については、学校のビジョンを明確にして、職員全体で共有して、生徒の指導にあたることが大切であることを改めて実感した。

III 選択研修

詳細は別ページに記載。

IV 特定課題研究

詳細は別ページに記載。

V 研修を終えて

中堅教諭等資質向上研修は終わってしまうが、採用試験の際に抱いていた志を忘れず、今後も日々授業改善に努めたい。また、自身を磨くだけではなく若手教員の指導も積極的に行いたい。子どもたちに対して、身近な大人として模範的な行動をし、進路実現へのサポートすることで、子どもたちのキャリアデザインの役に立てるとともに、専門性を有し、社会人として必須な力を子どもたちに身につけさせたり、親身に関わったりすることで、保護者との信頼関係の構築を行っていきたい。最後に、お忙しい中にもかかわらず、中堅教諭等資質向上研修にご尽力いただいた、すべての先生方に感謝申し上げたい。

第1学年D組 公民科（現代社会） 学習指導案

平成30年9月3日（月曜日）3校時

授業者 横手高等学校教諭 高橋 直樹

使用教科書 現代社会（東京書籍）

使用副教材 クローズアップ現代社会（第一学習社）

1 単元名 「日本国憲法の基本原理～基本的人権の保障～」

2 目標

- (1) 日本国憲法における基本的人権保障の基本原則は、「個人の尊重」、つまり「人間の尊厳」と「生命・自由及び幸福追求に対する国民の権利」を保障することにあることを理解する。
- (2) 「法の下の平等」については、その意義について種々の差別問題を関連させて理解させ、具体的な解決策を探求させたり、望ましい国家や社会のあり方について考える。
- (3) 自由権については、「国家からの自由」、つまり「国家からの干渉、あるいは不作為による侵害を受けないこと」を内容とすることを理解する。
- (4) 社会権については、人間の自由や尊厳を確保するために国家・政府に要求することのできる権利であり、国家・政府が積極的に立法等により保障しなくてはならない権利であることを理解する。
- (5) 人権を具体的に維持・実現するために、参政権・請願権・裁判を受ける権利・損害賠償権等や法定手続きの保障があること、また国民としての義務があることを理解する。
- (6) 現代社会の進展に伴って、憲法13条等を根拠として新しい人権が提唱され、判例で認められているものも現れていることを認識する。

3 単元の指導計画（7時間中の2時間目）

(1) 平等権 1	法の下の平等の考え方はどのようなものか	・・・・・・・	1時間
(2) 平等権 2	平等な社会について考える	・・・・・・・	1時間（本時）
(3) 平等権 3	条件的平等について考える	・・・・・・・	1時間
(4) 自由権 1	精神的自由はなぜ守られなければならないのか	・・・・	1時間
(5) 自由権 2	身体的自由はなぜ守られなければならないのか	・・・・	1時間
(6) 社会権	国家はどこまで国民を守らなければならないのか	・・・・	1時間
(7) 新しい人権	現代社会においては、どんな人権が必要なのか	・・・・	1時間

4 生徒 秋田県立秋田西高等学校 1年D組 35名

5 本時の計画

- (1) 学習課題 社会の中に存在する不平等な出来事や差別問題を知り、共生社会実現に向けた解決策について考える。
- (2) ねらい
 - ・国内外で起こっている不平等な出来事や、様々な差別問題について理解する。
 - ・差別を解決するための1つの方策である「アファーマティブ・アクション」の是非について考える。
 - ・共生社会を実現するためには、どうしたらよいのかについて解決策を考える。

(3) 展開 A : 関心・意欲・態度 B : 思考・判断・表現 C : 資料活用の技能 D : 知識・理解

過程	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○パワーポイントの設問を読み、理由を考える。 ・外科医を無意識に「男性」だと考えてしまうのはジェンダーバイアスがかかっていることに気付く。 ・本時の「学習課題」を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○答えがわからても声に出さないように注意する。 	
本時の目標：様々な差別問題を知り、共生社会実現に向けた解決策について考える。			
展開 (40分)	<p>【個人での学習活動（15分）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○憲法14条「法の下の平等」の考え方を通して、差別のない社会を理想としていることを理解する。 ○パワーポイントの写真やグラフを通して、国内外で起こっている不平等な出来事や、差別問題について理解する。ワークシート1に理解したことを記述する。 事例1 男女の不平等 事例2 外国人差別 事例3 被差別部落問題（同和問題） 事例4 アイヌ差別 事例5 障害者差別 <p>○ワークシート設問3の「アファーマティブアクション」の是非に関する資料を読み、考えたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを配付する。 ○後半に時間を残すために、興味を持たせつつ簡潔にスライドを紹介する。 	<p>D 世の中でおこっている不平等な出来事や、差別問題を理解する。ワークシートに事例1～事例5を自分の言葉で記述できる。 (ワークシート)</p> <p>B 自分なりの判断基準で考えを記述できる。 (ワークシート)</p>
	<p>【グループでの学習活動（約25分）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5人～6人1班のグループを作る。（計6班） ○ワークシートの設問3についてグループ内で発表し合い、共有する。（約3分） ○グループから選出された代表者が意見を発表する。 <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共生社会の実現のための解決策についてグループ内で議論する。 ○グループから選出された代表者が意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各グループの意見を大切にし、自由に発表できるような雰囲気づくりをする。 ○可能であればクロストークをさせ、議論を深める。 <p>○KP法を用いて「キーワード」で発表させ、時短と発表を両立させる。</p>	<p>B 自身の考えをグループ内や全体の前で表現することができる。 (観察・発表)</p>
まとめ (5分)	<p>【学習の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○机を元に戻す。 ○ワークシートに「振り返り」を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○回答を生徒にフィードバックする場合は、この考えは良いこの考え方は悪いという捉えた方をしないようにする。 	

選択研修報告書

所 属 校	秋田県立横手高等学校	職・氏名	教諭 高橋直樹
研 修 先	秋田県立近代美術館		
研 修 期 間	平成30年8月4日（土）～平成30年8月6日（月）		

1 研修の概要

- 8月4日（土）10：00～10：30 美術館概要説明
10：30～12：00 チームラボ展鑑賞体験・誘導業務確認
13：00～14：00 セカンドスクール補助
14：00～15：00 美術館受付業務・監視業務体験
15：00～16：00 研修のまとめ
- 8月5日（日）10：00～12：00 びしゃびしゃアート1回目準備・補助
12：00～13：00 休憩後、びしゃびしゃアート2回目の準備・受付補助
13：00～16：00 びしゃびしゃアート2回目準備・補助
- 8月6日（月）10：00～11：00 セカンドスクール業務補助
11：00～12：00 セカンドスクール補助
13：00～15：30 チームラボ監視・誘導業務補助
15：00～16：00 研修のまとめ

2 研修の成果

当初希望していた研修先（横手地方裁判所、日本銀行秋田支店）と日程等が合わず、最終的に横手市の「秋田県立近代美術館」に企業研修を引き受けて頂き3日間を過ごすことができた。

秋田県立近代美術館で展示されている作品（秋田蘭画や彫刻等）について知ることから始まり、そこで働く職員の方々がどのような仕事をしているのか、どのような課題を抱えているのかを、わずか3日間ではあったが体験することができた。今回の研修期間では、東北初上陸のウルトラテクノロジスト集団「チームラボ」のイベント中ということもあって、そのサポートをさせて頂く機会に恵まれた。業務を補助する中で、このイベントにあたって、チームラボへの依頼や、広告などの宣伝業務、イベント会場の設営、予算の確保、安全性の課題、子どもやお年寄りへの配慮など、多岐に渡る業務があることを体験した。経費節約のため、極力外注はせず、多くの業務を職員による手作業が中心で行われていることに驚いた。また、小中高生向けのセカンドスクールが充実しており、学校現場と積極的に交流を図っていることも初めて知った。職員の方の話によると、施設や道具は整っているので、もっと積極的に学校の先生方も活用して欲しい、とのことだった。

学校現場以外を経験したことのない私にとって、たった3日間ではあったが、刺激の大きな時間であった。また、秋田県の財政難を企業研修の中で感じると共に、その中にあっても、博物館や美術館などの公共施設との連携をすることが、教育効果を増大させるものになると感じた3日間であった。

(A4判1~2枚程度)

特定課題研究レポート

所属校	秋田県立横手高等学校	職・氏名	教諭 高橋 直樹
研究分野	A : 本県の教育課題に関する研究 C : 生徒指導に関する研究 E : 道徳教育等に関する研究 G : 総合的な学習の時間に関する研究	B : マネジメントに関する研究 D : 教科等指導に関する研究 F : 特別活動に関する研究 H : 特別支援教育に関する研究	I : その他
研究テーマ	授業アンケートを活用した授業改善について		

1 研究の概要

(1) 研究の動機

本年度、本校地歴公民科では、①「社会的事象を比較させ、因果関係を探り、相互作用を考察することにより、学びへの挑戦の意味を体得させる」②「社会変化に対応できる能力を育成し、良識ある公民としての資質を養う」をテーマに、「授業の充実、テスト作成の工夫」「評価方法・観察方法を試行錯誤する」「個人の成績の推移や、授業アンケート結果を科として分析する」という取り組みを通して、目標を達成しようと授業実践を行った。

ここでは、今後の自分自身の授業を実践する力の向上と、方向性を明確にしていくという目的で、年に2回の生徒に対する授業アンケートの結果をもとにして行った本年度の公民（3年生「政治経済」）の授業での取り組みと成果、課題について研究した。

(2) 研究方法

年に2回（7月、11月）行うアンケートのそれぞれの項目について、Aそう思う（4点）、Bだいたいそう思う（3点）、Cあまり思わない（2点）、Dそう思わない（1点）で評価し、目標の達成に向けた授業方法の改善を行う。

2 成果と課題

(1) 第1回授業アンケート（7月実施）の結果の検証と第2回授業アンケートまでの取り組み

質問項目	評価（平均値）
授業の目標や学習課題が明確に示（板書）されている。	3.9
生徒の思考を促し、深い学びにつながるような取り組み（グループ活動の導入や発問の工夫など）が行われている。	3.6
一方的な授業でなく、生徒の考え方や発言を引き出し、受け止めてくれる。	4.0
授業内容に興味、関心がわき、主体的に参加できる授業である。	4.0
生徒の理解度を確認しながら、わかりやすく授業が進められている。	3.9
学習課題等を用いて、学習内容の振り返りが行われている。	3.4
授業内容が身に付き、学力が向上していると実感できる。	3.8

①検証結果

- 振り返りについては自分でも覚悟はしていたが、予想通りと言うべきか評価が低かった（3.4）。進度をとりとめもなく進めるのではなく、今日の進むべき範囲を明確に決め、時間配分を意識して最後の振り返りの時間をとることで知識の定着につなげることが必要である。この時間があるかないかが、授業内容が身につき学力が向上していると実感できるか、という項目にもつながってくると考える。

- ・生徒の思考を促し、深い学びにつながるような取り組み（グループ活動の導入や発問の工夫）が行われている、という項目でも評価が低かった(3.6)。グループ活動については進度の兼ね合いで頻繁には取り入れられなかつたために評価が低かったのではないか。進度を進めるときと、アクティブラーニング等のグループ活動を取り入れるととのメリハリを意識して、授業を実践することが必要だと感じた。
- ・教員の意欲を評価していると思われる項目があるので、そこは励みにしたい。
- ・（自由記述において）視覚教材の使用について評価する声が多くあった。（写真の掲示・動画の視聴等）

②改善のための具体的取組

- ・「振り返りの時間（5分程度）」を意識して授業計画を構想し、実践する。
- ・進度と深度の両立を図り、定期的にアクティブラーニング等の授業を取り入れていく。

(2) 第2回授業アンケート（11月実施）の結果の検証と今後の取り組み方について

質問項目	評価（平均値）	
	1回目	2回目
授業の目標や学習課題が明確に示（板書）されている。	3.9	3.9
生徒の思考を促し、深い学びにつながるような取り組み（グループ活動の導入や発問の工夫）が行われている。	3.6	3.8
一方的な授業でなく、生徒の考え方や発言を引き出し、受け止めてくれる。	4.0	3.9
授業内容に興味、関心がわき、主体的に参加できる授業である。	4.0	3.9
生徒の理解度を確認しながら、わかりやすく授業が進められている。	3.9	3.9
学習課題等を用いて、学習内容の振り返りが行われている。	3.4	3.8
授業内容が身に付き、学力が向上していると実感できる。	3.8	3.8

①検証結果

- ・振り返りの時間を取り入れたことで、評価が高くなつた(3.8に。+0.4)。
- ・進度をスピードアップし、アクティブラーニング等を取り入れたことにより、生徒の思考を促し、深い学びにつながるような取り組み（グループ活動の導入や発問の工夫）が行われている、という項目の評価も高くなつた(3.8に。+0.2)。特に、平等権の学習において、「アファーマティブアクションの是非を議論する」という授業が、生徒からの評価が高かつた。
- ・進度を早くしすぎたために、少し一方的な授業展開になつてしまつた。
- ・授業内容が身につき、学力が向上していると実感できる、が変化がなかつたということは、成績の推移と関係していると思われる。4月当初からの振り返り、知識の定着の必要性を感じた。

3 研究を終えて

アンケートの結果より、今年度の授業での取り組みの反省を行うことができ、来年度以降の授業の改善点を明確にすることができた。生徒との人間関係がある程度うまく構築できていたので、全般的には高い評価を付けてもらっているが、生徒からの教員に対する配慮という部分はあると思っている。高い評価よりもむしろ低い評価を分析することで、授業改善につながると考える。

今年度の課題は、「振り返りの時間の徹底」と「アクティブラーニングの導入」の2点が浮かび上がつた。前者については、地歴公民科教員にとって「ある種のしつこさ」は成績向上の大事な要素だと思っているので、知識を定着させる取り組みとしても重要性を実感した。後者のアクティブラーニングについては、生徒は小中学校の経験から慣れており、取り入れないとむしろ違和感を感じる世代なのだと思われる。進度と深度を両立しつつ、積極的に生徒に議論させたり、考えさせたりする授業を実践し、深い学びにつなげることが大切だと考える。

平成30年度 高等学校8年経過研修講座

保健体育科 目黒 大祐

1 研修の目標

自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質・能力の向上を図る。

2 日程

I期 平成30年7月 9日（月）10：00～16：15

①<開講行事・オリエンテーション>

②<講義・演習> 事例を通した生徒理解と対応

講師 秋田県総合教育センター指導主事 高橋 華子

③<講義・演習> 学校組織の一員として ～自己理解に基づく目標設定～
講師 秋田県総合教育センター指導主事 加藤 昌宏

④<講義・演習> カリキュラム・マネジメント

講師 秋田県総合教育センター指導主事 小松田 哲也

II期 平成30年8月23日（木）10：00～16：15

①<オリエンテーション> 日程説明等

②<協議・演習> 授業評価による継続的な授業改善

講師 秋田県総合教育センター指導主事 小松田 哲也

③<協議・演習> 授業評価による継続的な授業改善
各教科で協議

④<閉会行事> 講評

3 講座の内容

I期 事例を通した生徒理解と対応とカリキュラム・マネジメントについて講義を受けた。演習では自己理解に基づく目標設定を行い、「あきたキャリアアップシート」を用いて実践と改善案を作成した。また、新学習指導要領の変更点や留意点の確認も行われた。

II期 主に授業評価による継続的な授業改善について講義を受け、その後各教科に分かれでグループ別協議を行った。各自が今まで行った授業評価の工夫について持ち寄り、グループごとに協議を行った。また、協議を基にして、指導案を検討し授業評価による継続的な授業改善のあり方について議論した（持参した指導案は次項に掲載）。

保健体育（保健）学習指導案

秋田県立横手高等学校

目黒 大祐

1 単元名 現代社会と健康

2 小単元 感染症とその予防

3 単元目標

(1) 新たな感染症の問題に関して例をあげて説明できる。

(2) 感染症の予防対策について、社会と個人に分けて説明できる。

4 指導と評価の計画

⑩ 感染症とその予防

時 数	学習内容	評価の観点		
		関心 意欲 態度 (A)	思考 判断 (B)	知識 理解 (C)
1 【本時】	1. 様々な感染症を分類してみよう (グループ学習)		感染症は、時代や地域 によって自然環境や社会 環境の影響を受け、発生 や流行に違いが見られる ことを理解している。	
2	1. 病原体が原因の病気を感染症とい う (教P36) 2. 問題となる感染症は変化してき ている (教P37) 3. 感染症の予防は社会と個人で取り 組む (P38)			感染症の予防には、社会的 的な対策とともに、それらを前提 とした個人の取り組みが必要である ことを理解している。

5 本時のねらい

様々な感染症の主要症状や感染経路などについて正しく理解することができる。

6 指導過程

過程	学習活動	教師の支援	評価
導入 (5分)	・前時の確認をする。 ・本時のねらいを確認する。 ・グループ編成をする。	・教科書に沿って前時の内容を想起させる。 ・本時のねらいを板書して理解させる。 ・座席を移動せずに、周囲の仲間と6人編成・7人編成の班を3つずつ作らせる。 ・各グループで発表者と記録者を決めさせる。	
展開 (35分)	・グループ学習の方法を確認する。 ・感染症の特徴を理解する。 ・感染症を分類する。	・プリントを配布し、本時の学習方法を理解させる。 ・プリントをもとに、様々な感染症の特徴を理解させる。 ・個人で、感染症を重篤度や危険度別に分類させる。 ・ホワイトボードとマジックペンを配布する。 ・個人の意見をもとに、グループで感染症を分類し、ホワイトボードに書かせる。 ・分類のヒントを与える。「各分類に当てはまる数」を告げる。 ・分類のヒントを与える。「分類していく順番」を告げる。	
まとめ (15分)	・話し合った意見を全体に提示する。 ・本時のまとめを行う。	・各グループのホワイトボードを黒板に貼り付けさせる。 ・解答を発表する。 ・プリントの資料をもとに感染症を正しく分類することができたか、グループで自己評価をさせる。	(B) 感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解している。

台湾からの大学生との交流について

海外研修班：沓澤信宏

1. 日 時 平成30年8月17日（金）13:00～17:00

2. 参加者 台湾からのインターン大学生10名 交流を希望する生徒26名

3. 活動内容 ①部活動体験 ②台湾文化の紹介 ③お弁当作り

①部活動体験

台湾からのインターン大学生が5名ずつ2つのグループに分かれ、それぞれ弓道部と茶道部の活動に参加した。大学生たちは弓を引くことに苦戦していたが、弓道部の生徒のアドバイスを受け、最終的に的を射ることができた。

また、茶道体験ではお茶を立て嗜む一連の流れを経験し、日本文化に触れることができた。

②台湾紹介文化の紹介

大学生が2名ずつ5つのグループに分かれ、「台湾と日本の関係性」・「教育制度の違い」・「台湾の観光情報」・「台湾の中国語」・「台湾の食文化」についてパワーポイントを用いたプレゼンテーションを実施した。大学生たちの熱い希望の元、主に日本語で展開されたが、詳細な説明を要する部分は英語を使用してもらい、本校生徒と大学生間で共通理解を果たすことができた。

③お弁当作り

日本のお弁当は、英語の教科書の題材になるように、日本を象徴する食文化の一つである。講師として秋田県内のテレビで活躍されている有坂和美先生を招き、「豆腐つくねの炒り煮」・「にんじんしりしり」・「ミニトマトとオクラの和風マリネ」・「ちくわと大葉の混ぜご飯」・「鶯もち」をメニューとしたお弁当作りで生徒間交流を図った。本校の生徒と大学生混合の8つのグループ毎に5つの全てのメニューを調理したが、生徒と学生の中には料理が趣味の生徒もおり、予定した時間より大幅に早くお弁当を完成させ、その写真を撮り、SNSにアップする者もいた。

○交流を終えて

交流を通して、日本語と中国語を互いに教え合い、状況に応じて英語を活用しながら協力して活動できていたことが、本校生徒にとっての収穫であったと思われる。交流に参加した生徒の中には、英語の学習に対してさらに積極的になった生徒もあり、外国語学習の観点から効果があったと感じられる。



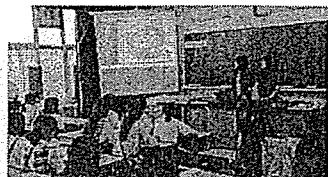
それぞれ弓道部と茶道部の活動に参加した。大学生たちは弓を引くことに苦戦していたが、弓道部の生徒のアドバイスを受け、最終的に的を射ることができた。



また、茶道体験ではお茶を立て嗜む一連の流れを経験し、日本文化に触れることができた。

②台湾紹介文化の紹介

大学生が2名ずつ5つのグループに分かれ、「台湾と日本の関係性」・「教育制度の違い」・「台湾の観光情報」・「台湾の中国語」・「台湾の食文化」についてパワーポイントを用いたプレゼンテーションを実施した。大学生たちの熱い希望の元、主に日本語で展開されたが、詳



細な説明を要する部分は英語を使用してもらい、本校生徒と大学生間で共通理解を果たすことができた。

③お弁当作り



として秋田県内のテレビで活躍されている有坂和美先生を招き、「豆腐つくねの炒り煮」・「にんじんしりしり」・「ミニトマトとオクラの和風マリネ」・「ちくわと大葉の混ぜご飯」・「鶯もち」



をメニューとしたお弁当作りで生徒間交流を図った。本校の生徒と大学生混合の8つのグループ毎に5つの全てのメニューを調理したが、生徒と学生の中には料理が趣味の生徒もあり、予定した時間より大幅に早くお弁当を完成させ、その写真を撮り、SNSにアップする者もいた。



○交流を終えて

交流を通して、日本語と中国語を互いに教え合い、状況に応じて英語を活用しながら協力して活動できていたことが、本校生徒にとっての収穫であったと思われる。交流に参加した生徒の中には、英語の学習に対してさらに積極的になった生徒もあり、外国語学習の観点から効果があったと感じられる。

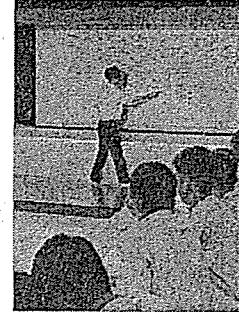
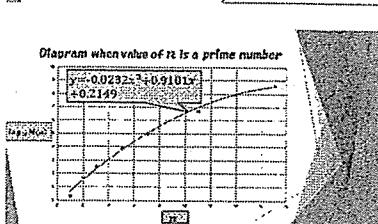
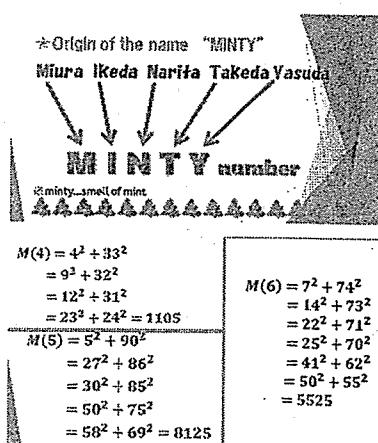
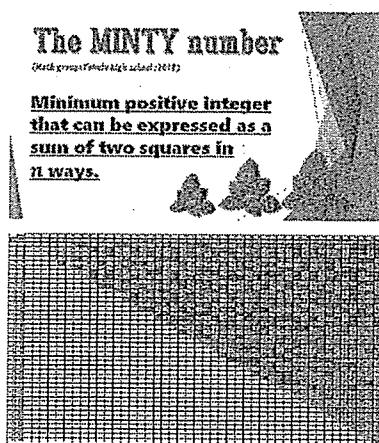
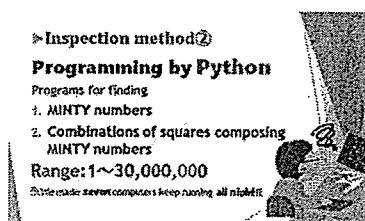
秋田の教育資産を活用した海外交流促進事業・タイ王国訪問について

海外研修班：沓澤信宏

1. 日 時 平成31年1月7日(月)～平成31年1月12日(土)
2. 参 加 者 理数科2年1組生徒4名(課題研究数学班:武田侑純、成田皓城、三浦央暉、安田実生)
その他、秋田北鷹高校生徒4名秋田中央高校生徒4名
3. 交流の概要
 - ①バンコク・クリスチャン・カレッジでの英語による課題研究の発表と交流
 - ②ワタナ・ウィッタヤ・アカデミーでの交流
 - ③ワチュラウッド王立校での交流
 - ④バンコク市内での王宮見学

①バンコク・クリスチヤン・カレッジでの英語による課題研究の発表と交流

本校数学班4名の生徒はインドの數学者ラマヌジャンの「タクシー数」にヒントを得て設定した課題研究のテーマである「ミンティ数(The Minty Number)」について英語でのプレゼンテーションを行った。4名はそれぞれの役割を明確にし、全員が原稿を見返すことなく、滑らかにプレゼンテーションを展開した。本番までの練習期間は十分だったとは言えないが、4名全員が英語で作成した原稿を頭に入れ、アイコンタクトやジェスチャーを活用しながら、「ミンティ数」が「2つの平方数の和としてn通りに表される正の整数」であることを伝えられたことは4名にとって大きな収穫であった。数学班は今後もPythonを活用し、「ミンティ数」の規則性を発見する研究を続けていく。



また、交流行事ではタイ王国の国技であるムエタイを体験する機会も得られた。4名にとっては人生初の経験であり、一所懸命取り組んでいた。

②ワタナ・ウィッタヤ・アカデミーでの交流

ワタナ・ウィッタヤ・アカデミーは、本校数学班の女子1名が前日からホームステイをしたホストファミリーの生徒が在学している女子校である。通常のカリキュラムにタイ舞踊やジャズダンスが組み込まれていることが特徴的であった。また、タイ王国の代表的料理であるトムヤムクン作りの機会も設定され、4名はレシピについて英語で質問しながら調理していた。



③ワチュラウッド王立校での交流

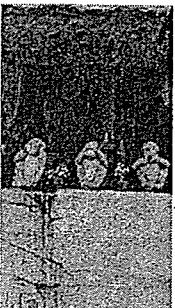
ワチュラウッド王立校は今年度から本校と姉妹校提携を結んだ男子校である。バンコク市内で1、2を争う進学校である。敷地も広大で、生徒たちは学年を縦割りした複数の寮で生活している。また、各寮にイメージカラーがあり、平日午後のスポーツ活動や運動会はイメージカラーのスポーツウェアを着用して、各寮でチームとして活動する。



ワチュラウッド王立校の生徒たちとは、iPadを活用したタイ語学習とタイのお菓子作りを通して交流した。また、ワチュラウッド王立校校長から今後の姉妹校交流に対する具体的展望を聞く機会も得られ、貴重な時間となった。

④バンコク市内での王宮見学

最終日は主にバンコク市内の王宮等を見学した。タイ王国王室の守護寺であるワットプラケオを訪れ、黄金の仏塔等を目の当たりにし、タイ仏教の文化的価値を実感する機会となつた。また、旧市街地にある黄金の丘では、日光東照宮の三猿と共に通点が感じさせるバンコクの三猿を見て、三猿伝来の起源について興味深く感じた。黄金の丘の頂上からは、バンコク市街を一望できるが、PM2.5による大気汚染が深刻化している現実を目の当たりにし、バンコクの急速な発展とその弊害について思いめぐらす時間ともなった。



いずれの観光地にもインバウンド観光で訪れている多くの中国人がおり、その光景に4名も圧倒されたようであった。

○感想

生徒にとっても私にとっても初めてのタイ王国訪問であったが、タイ王国が親日国の一であるという事実を多くの場面で実感することとなった。訪問・交流を行った3校の生徒たちはみな日本文化に興味があり、例えば日本のアニメをきっかけとして生徒たちはコミュニケーションを取っていた。レストラン従業員の中には日本語が非常に堪能な人もおり、我々も助けられたと感じている。



何よりも、数学班の生徒4名が「ミンティ数」の研究内容を、タイ王国の生徒に英語を用いて整然と伝えられたことと、滞在を通して英語運用に積極的になり続ける姿を見られたことが、収穫であった。本事業のためだけではなく、課題研究のプレゼンテーションとポスター制作について、2言語で準備することは多種多様な聴衆を想定するという観点で有益だと感じた。

平成30年度 第1回 秋田県12高校進学協議会の報告

高橋 史

1 日時、場所、出席者

平成30年6月25日（月）、秋田市にぎわい交流館AU

高橋雄一教頭、佐々木満、渡辺伸吾、今入直樹、高橋史

2 全体会（講演）

演題 「秋田県の東北大等、難関大合格者を増やす方策について」

講師 学校法人河合塾 文理学院理事 佐々木一幸氏

学校法人駿台予備校 東北地区営業責任者 桑島隆裕氏

【内容抜粋】

- ・AOII→AOIII→一般入試という流れになっているが、秋田県の受験データを見ると、AOIIで失敗した生徒がAOIII、一般に出願しきれていないのが現状。結局センター試験の点数がとれていないので試験を連続させることができない。
- ・中学までに依存型学習が定着しており、自分で学習方法を改善できない。また、中学時代の改善による成功体験がないのでその意識もない。
- ・生徒の考えを引き出すことで、自分で考えるよう仕向ける。
- ・少子化により安易な学習で好成績、合格が可能であるため、それがしみついてしまっている。
- ・特に、高度な思考力を要する問題と格闘する機会が少ない、またはない。
- ・高校入学後も基本である教科書を丁寧に読んで、正確に深く理解しようとする意識が希薄。（読解力低下、理解の浅さ、活用力のなさ・・・）
- ・答案提出→添削では反応しない生徒が増加しているので、答案を直接持って行って個別に話し合うスタイルが有効。
- ・低学年における模試成績に対する関心が薄い。
- ・定期テスト等で知識・技能の定着・再現（定期テストをクリアすること）で学習が終始し活用力を身につけようとする意識がなくなっている。
- ・高校側が求める次元を上げる。生徒は難易度に合わせて学習するので、テストを改善するべき。
- ・難関大は問題が良質であるから、全科目にわたり、「高校での学習と教養をどれだけ真摯に本質を掴もうと努力してきたか」が勝負の決め手。
- ・志願目標数は3倍ルール。志願者の2／3が出願。その半分が合格。
- ・激励して、背中を押してあきらめさせない。そのためには保護者を動搖させることも重要。学校+保護者が一体となった後押しこそが力を倍増させる。生徒と一緒に弱気になるのだけはさけるべき。

3 全体会（講演）

【分科会1】3年次進路指導の悩みと解決策

司会 秋田高校 土門高士 記録 凰鳴高校 武石崇子

〈新テストへの対応について〉

- ・従来の指導で8～9割できるのでは… 【横手高校】
- ・現3年生に対してはそこまで対応する必要はないのでは…まずは基礎力を【秋田高校】
- ・問われ方が変わるので、覚えたことを再現できればよいというものではなくなる

【河合塾】

〈模試の過去問を解く教科・学校がある状態で実力判定はできるのか〉

- ・入試を知るという意味ではいい経験になるのでは。解いたからといって全体に大きく影響するような数値ではない。 【河合塾】
- ・解かせるだけでは意味が無い。教科として必要であれば使用してもよいのでは。
→授業・課外の教材として、フォローがある状態であれば有効ではないか。学年や進路で見通しを持って使用していきましょう 【秋田・秋田南・能代高校】

〈家庭学習の不足、指示されたこと以外できない生徒について〉

- ・週末に課題が偏りすぎて、追いつけない生徒がいる。教科のバランスを考える必要がある。
個人的には予習・復習を含め授業でやることを意識している。 【本荘高校】
- ・週の始めに課題を指示している。課題の量は以前より減少（結果は良くない…）

【大曲高校】

- ・生徒にまかせる時間を作っても、こちらから何か仕掛けないとできない生徒が多い。
- ・学習計画や振り返りなどは総学の時間を使って行わせている。 【秋田高校】
- ・短期～中期計画の目標設定をさせることで、家庭学習時間は増えつつある。
- ・志望・問題傾向別にグループを作って、2次試験の分析をさせたこともある。

【秋田南高校】

- ・浪人生が、自分がやるべきこと、現実とのギャップについてよく考えられるようになっている。予備校ではどのような指導をしているのか。 【秋田・横手高校】
- ・計画・目標・振り返り・結果を返却してからの振り返りと面談を多く行っている。ゴール地点をはっきりと知らせることが大切。 【河合塾】

〈今後のガイダンスの仕方など〉

- ・1～3年までのプラン（昨年度の3年生の例）
→2年の1月から東北大AOのガイダンス（志望理由書の書き方など）を行いグループ分け… 学び合うようになり、結果が上がってきた
→東北大オープンの返却のタイミングで河合塾や東北大の教授の講演 【秋田南高校】
- ・6月15日にガイダンスを行う。6月第1週（総体直後）には学年集会。

【能代、秋田、横手高校】

- ・効果はあるのか？効果の上がる方法は？始業式が切り替えさせるには結構良いタイミングである。 【秋田高校】

【分科会2】「2年次進路指導の悩みと解決策」

司会 湯沢高校 土田一人 記録 凤鳴高校 渡部拓

アンケートにもとづいて課題を2つだして、関連のありそうなものを取り上げた。1番大きな課題として、「多様な学力層への対応」ということになった。その中でも、各学校では、上位層への育成・下位層の底上げ・中間層の学力向上など、学校の事情によっての違いが見られた。

テーマ1 「多様な学力層への対応」

各学校の取組の説明。

【大館鳳鳴高校】

「萤雪の会」を行った。1年生のとき、進路指導主事の講話に始まり、国語・数学・英語の講義・問題演習などを行った。上位層の育成を目的に、模擬試験の結果から声かけをしていた。今年度もしていく予定。土曜授業も行う予定で、こちらは全員参加の対象で基礎的な学力を身につけさせることがねらい。秋休みには、英語と数学の予備校講師を招き、講義を行う予定。英語はセンター試験レベル。数学はレベル別で、2次試験レベルとセンター試験レベルに分ける予定。

【能代高校】

ハイレベル模試や補習を活用した上位者、難関大の指導。夏休みにかけてから、東北大学・医学科の志望者に向けて、土曜日を活用して駿台のハイレベル模試や河合塾の模擬試験・解説の講座を計画している。

【秋田西高校】

多様な学力層だけでなく多様な進路希望状況となっているので、進路志望に応じてガイダンスを実施したり、補習を行っている。しかし、教員数も限りがあり、時間もかかるため煩雑となっている。進学希望者に対しては、補習や添削なども行っている。

【秋田高校】

放課後補習や土曜授業はやっていない。生徒の自主性に任せている。学習プランを作成させるために、進路通信を発行していて生徒の意欲を引き出している。テスト前・模試前・夏休み前などに配布している。手帳も持たせている。

【秋田北高校】

国公立大学の看護・医療系を目指している生徒が40~60名いる。その中で学力の差もある。そのため、レベル別の課題を出している。長期休業中には、中・上位者層講座を行っている。

【秋田南高校】

土曜授業をやっていない。上位者向けの添削指導を行った。そのとき、希望者が多くて教員の手が回らなくなつた。そのため、上位者向けの補習を行うことにした。補習に参加できない部活動の生徒は、補習と同じもので添削をして、教員の負担を減らしている。その他、夏季休業中に英数国教科で予備校の先生を呼んでいる。

定期考査・模試向けの計画表を作らせて実施した記録を書き込ませていた。しかし、Classi もやっており重なるところがあるので、Classiについては実施した記録を入力している。

【秋田中央】

予備校講師を夏期・秋期・春期に招いている。夏期はⅠ期とⅡ期に分けている。Ⅱ期のほうに河合塾の英数の講師を招く予定。1年生の希望者が2年生の補習と一緒に受ける予定。

【本荘高校】

週末課題を出していたが、提出だけが目的になってしまっている生徒がいたので、週末課題の代わりに小テストを行うことにした。また、上位者向けには講座制の補習を行っている。下位層向けには定期考査前の学習会を実施している。

夏休みに、学習合宿を2泊3日で行っている。

【大曲高校】

勉強合宿はここ数年やっていなかったが、昨年から再開した。8月に上位者向けの勉強合宿を行って囲い込みをしたい。東北大学から外部講師を招き、Z会の問題を通して自信をもたせたい。冬休みには上位者向けのくくりでなく、希望をとって勉強合宿を行う予定。

【角館高校】

夏休みの補習は前半と後半で分かれている。進路希望が多様なため、前半は全員参加、後半は4大希望者向けで行っている。後半では2・3年生合同で行い、予備校の講師を招いている。手帳を持たせていて、担任が週1回程度チェックしている。

【横手高校】

真ん中の学力層がSS50台、一斉にやると上位層と下位層に手がかかっていない。その対策としては、週末課題や小テストをこまめにやっている。しかし、忙殺されている感じがある。秋田北高校のようにレベル別の課題の取り組みを参考にさせてほしい。夏期の学習会は自習という形式、また、予備校の講師を招く講義を開催する予定。

【湯沢高校】

課題として、下位層の底上げ・中間層の学力向上。下位層の底上げとして、1年次の補習で英語基礎補習を行っていた。中学校の英文を暗唱させている。1クラス分の生徒たちが希望している。2年次では、古典で習熟度別を開始している。応用・標準・基礎というレベル別で展開しており、基礎の生徒数は20人くらいになっているので、対話しながら授業を行っている。

あらゆる教科で小テストを実施しており、毎時間小テストで始まる教科がある。

中間層の学力向上対策としては、補習の声かけを1人1人にして参加させている。

【協議】

秋田南高校に対してClassiの質問。

学習時間調査を月に1回実施している。1年生・2年生・3年生で経年比較をしている。生徒の入力状況はすぐに分かる。どの教科・科目の学習時間が多いか少ないか、昨年度と比べて分かってくる。生徒自身のコメント記入があって、部活によって勉強時間が少なくなっていることが分かってくる。

今年の4月からポートフォリオのような活用ということで振り返りできるように検討中。

以前までは、テスト前に学習時間を紙で調査していたが、Classiでは毎日学習時間を入力し

ている生徒がいるので、部活の顧問など全職員が見ることができて声かけにつながる。先生たちは、毎日チェックするのは大変という人もいるが、生徒とやりとりができるで楽しいという先生もいる。

テーマ2 「進路意識の向上」

各学校の取組の説明。

【大館鳳鳴高校】

東北大学オープンキャンパスに1年生の時に100名くらい参加している。例年、オープンキャンパスと予備校の講義をセットでやっていたが、今年は予備校の講義をやらずに、東北大の先輩の話を聞くという形になっている。2年生は、25人参加の予定。

進路意識を高めさせるために、第一志望届を12月に書かせて、冬休みを通じて取り組ませようとしている。

【能代高校】

探求活動の内容と2年生全員参加のインターンシップをリンクさせて、自分の希望する職業につなげて進路意識を高めようとしている。

【秋田西高校】

オープンキャンパスにきちんと行かせる指導を行っている。大学のパンフレットが自分の家に届くように申込書を書かせている。保護者が学校の進路指導について認識してもらうようにやっている。併せて、親向けの進路講演会を行っている。保護者の意識を変える目的。

看護医療系、福祉や教育などのインターンシップを推進している。

【秋田高校】

東大・東北大のガイダンスを行っている。医学科を志望している生徒に新聞記事をとらせている。

東北大学の出前講義をお願いしていて、探求活動と関連させて、AO入試に向けて行っている。

【秋田北高校】

新聞記事をA4にまとめたものを全学年の生徒に配布している。インターンシップを夏休みと創立記念日に行っている。宮城県の大学（東北大学・宮城大学・東北福祉大学など）のオープンキャンパスに参加している。1・2年生の希望者で日帰り組と一泊二日組の2つのグループ別で参加している。一泊二日組は、河合塾の授業を2時間ほど受けてくる。

【秋田南高校】

志望別のガイダンス。大学の先生を招き、13の学部学科別のガイダンスを行っており、2時間ほど展開している。さらに加えて、進路の手引きを利用して、入試の仕組みについて学ぶ予定。東北大学のオープンキャンパスへ希望者で参加する。

【秋田中央高校】

カレッジセミナーは、視野を広げる目的で行っている。秋田大学の特定の学科を志望している生徒が多い。東北地区の大学を招き、出前講座に加えて大学説明会を行っている。これで志望が変わらずとも、この講座などをふまえて考えてもらえばいい。

志望理由書の作成講習会を開催して、冬休み中に書かせる。現時点では足りないことに気付かせることをねらいとしている。

【本荘高校】

総学を活用した進路学習。新しい試みを行っている。生徒の現在の志望を分野別にして、学年の先生たちに分野別のコースをもってもらい、学問研究や大学について調べ、その分野・業界の進路スクラップをして、秋に発表する予定。最終的に志望理由書を作成するが、そこに向かたネタ作りとしてのきっかけにする。

【大曲高校】

志望分野別に分かれグループを作り、学部学科のテーマに沿った発表を行っている。1年生のときに全員が、東北大学のオープンキャンパスへ行った。2年生は秋田県内の秋田大学・秋田県立大学・国際教養大学へ訪問する予定。

修学旅行後に志望理由書作成講習会を行う。推薦・AOを中心に進める予定のため、2年生のうちに志望理由書を作成させておく。

【角館高校】

夢ナビライブについて。10月に仙台市にて行われていて、昨年、一昨年参加した。他県の進学校でもバスで来ていた。全国の国公立・私立の大学の先生たちがきて、10箇所のブースで30分くらいの講義を7コマ行う。志望理由を作るためのきっかけ及び、色々な大学が来ているので視野を広げさせることをねらいとしている。今年度からは進路行事にして、学年部の予算をもって全員参加する予定。

【横手高校】

あをくも高大連携事業とは、オープンキャンパス等の学校訪問。それに絡めて、模擬講義や先輩からの話を聞いている。今年度は宿の関係上、東北大学のオープンキャンパスに参加する形式。

【湯沢高校】

アドバンスト講義で、大学の先生を招き、講義を行っている。大学コンソーシアムへの参加を推奨している。

【分科会3】「1年次進路指導の悩みと解決策」

テーマ：英語4技能検定試験の対応について

司会 角館高校 高橋寿彦

ポートフォリオの作成について

記録 凤鳴高校 島山智道

1. 英語4技能検定試験の対応について

(1) 授業における4技能検定への対応について

対応できている学校は少ない。どこに焦点を当てて授業を実施していくか迷っている。特にリスニング対策にどれくらい時間を割けばよいか疑問である。検定に対して学校全体で話題にしている学校は少なく、今後の課題として学校全体で共有して英語の授業を展開していく必要がありそうである。

(2) 英語4技能検定試験の公平性について

1、2年生から実施できるG T E Cを導入しようと考えている学校が多い。公平性の確保ができるようにお願いしたい。

(3) 英語4技能検定試験の受験時期について

秋田高校では他教科への影響を考えると、4月に実施したいと考えているが、部活動が終了してから実施しようと考えている学校が多い。ただし、日程が後ろにずれ込むにつれ厳しくなることは確かである。できるだけ前倒しの日程で実施できないものか、今年度中に2020年度の学校行事予定の検討を行う必要がある。

(4) 検定試験のフィードバックのあり方について

ただやりっぱなしで終わらないためにどうするか、まだ手探りの状態である。

2. ポートフォリオの導入について

(1) Classiの導入状況について

導入している学校においては主に学習時間の把握や探求活動に利用している。デジタルで活用できることは便利であるという意見が多い。また、課題配信機能を使い、進路講演会の振り返りができた。試行錯誤しながらも利用を継続したい。

(2) ポートフォリオのあり方について

角館高校では学期や行事の振り返りに紙媒体のものと電子媒体のものの両方を活用している。何らかの形で記録を残しておくことが必要である。生徒の主体性の評価が、ボーダーライン上の生徒の合否判定の材料として活用される可能性も否定できない。こちらについても情報共有していく必要性がある。

平成30年度 第2回 秋田県12高校進学協議会の報告

高橋 史

1 日時、場所、出席者

平成30年12月6日（木）、秋田県立中央高等学校、

武田誠建 打矢泰之 高橋史

2 全体会（講演）

演題 「高大接続改革の展望—高大連携の再構築へ」

講師 東北大学高度教養教育・学生支援機構 高等教育開発部門入試開発室

教授 倉元 直樹 氏

（1）12月5日HPでの発表内容（一般入試）について

①英語認定試験 英語認定試験の受験を結果提出は求めない

A2レベル（英検でいうと準2級）以上が望ましいのが出願基準

②国語の記述式問題の活用

段階別評価を点数化して合否には用いない

合否ラインに同点の場合（過去10数年に一度もなし）は評価の高い方を優先する
(過去10数年同点はないが・・・)

【倉元教授コメント】

採点はあの期間では絶対無理と今でも思っている（疑っている）。精度も信用できない。また、誰かが情報を漏らした、自分が採点している、などとSNS上で言っただけですべてがダメになる可能性があるようなものを当初から配点に組み入れるわけにはいかない。

③調査書について

志願票に調査書と対応した5項目程度のチェックリストを設けて志願者がチェックする自己申告方式

5項目はほぼ決まっているが、他の有力大学とすりあわせ中（協調は絶対に必要）

【倉元教授コメント】

- ・海外研修と称して、家族で海外旅行しているようなことを評価する必要はない
- ・e-potfolio等で30分かけて入力している時間があったら普通に勉強していた方がいい
- ・新しいシステムを何百万円かけて入れても全く無駄になる。
- ・先生方には従来通り、生徒に勉学に励ませてほしい。
- ・3年生、2年生、1年生それぞれに違うことを語らなければならぬような社会、制度はおかしい。（何を見、何を聞きますか？何を信じますか？何を語りますか？）
- ・マスコミ、受験産業の利益誘導目的の2次情報になぜ食いつくのか。情報源はまずは文科省からとて冷静に対処すべき。あまり動かずまずはじっくりと学力をつけるべきではないか。

(2) 今後の展望

実際には、多くの大学関係者は今まで関心なかった状態であるが、今年はプレテストの実施などで、試験問題を見る機会が増えたところ、少なからずショックを受け、現在の入試制度のままではまずいという危機感が高まっている。

→ 共通テストの配点を少なくする傾向、大学の個別試験を重視する傾向がAOでも一般入試でも強まる可能性が高い。

現在、有名大学の間で頻繁なコミュニケーション（情報交換）を行い、すりあわせを行っているので、英語の外部試験、調査書については、ほぼ同じような対応になると思われる。さらに地方の国公立大学もその影響を受ける可能性はある。

【倉本教授コメント】

- ・現場の先生たちには、マスコミや受験産業からの情報ではなく、自分で確かめた情報をもとに信念をもって生徒たちに接してほしい。まつとうな入試制度にしてくれ、という要望を持ってほしい。

講演会後の質疑応答の概要

Q (秋田高校 金岡)：東北大学の方針表明を受けて、高校側からの働きかけ等で、英語外部検定試験に関する大学側の方針が変わる可能性はあるのか。

A：岩手県立大では一度出した方針を11月26日に変更しているという事実がある。

Q (秋田高校 金岡)：生徒の受験機会を保証するために、高校側として日程調整等の配慮は必要だと思うか。

A：個人的には学校側にそういうことをしてほしくないと思っている。

Q : (大館鳳鳴高校 肥田) プレテストの内容を踏まえて、東北大学の入試問題が今後変わること可能性はあるのか。

A : 今のところは、基本的に変わらないと思う。配点比率等は検討の余地があると個人的には考えている。

Q : (大曲高校 津谷) 東北大学では新テストの初年度は検定試験を合否判定には使わないとのことだが、3年間の移行期間が終わったら外部試験のみに移行すると言われているが…。

A : 誰が言っているのか。文科省でそのようなことは言っていない。

3 分科会の記録

【分科会1】今年度大学入試AO・推薦状況の情報交換および今後の課題》

秋大と東北大に限定して各校の取組状況および結果について情報交換

〔秋大〕

能代：合格者はA段階の生徒 面接練習はさほどでも。でも真面目にこつこつと

秋田西：合格者は面接でも喋れる生徒で元々の成績が良かった。

秋田田：目的を明確に取り組んできた生徒が結果をだした。

秋田南：進学校から取りたくないというメッセージだったのかと思われる結果。

秋田中央：チャレンジさせたいという思いで受けた子は落ちた。実力通り。

本荘：落ちた子はミスマッチ？ 志望理由が弱かった？

大曲：数学が弱く無部だったのが響いたようだ。

角館：部活で頑張れた子が生きた。またそこに入りたいという意思の強さが結果に反映。

湯沢：実力通りの結果。

◎質問事項：受験に関して学校側からの指導について

・大曲高校では全員が自分の意思での出願であり学校として圧力をかけた生徒はない。一方、湯沢高校では半分以上が教師側からの勧めでの受験であった。

・対策の開始は7月下旬までに書類を準備させ、その後から面接練習を開始した。夏休みを利用して指導を開始する他、指導体制も全体に割り振って行うところが多かった。

・志願理由書を書かせる練習について1回目を2年生のうちに書かせる学校は半分弱程度あった。

〔東北大〕

大館鳳鳴：基本的に実力での合格。

能代：勉強と部活を両立。自主的な活動で科学者の卵という活動で実績作り。

秋田：文章を理解する力の差が重要。科学者の卵に参加した子でも落ちていた。医学部は数学が厳しかったようだ。東北大に関しては学力が基本。

秋田北：理系トップでも結果を出せなかつた。

秋田南：チャレンジした生徒は結果をだせていない。学科試験の配点が変わったことが影響した可能性がある。着実に得点した生徒が合格している。

秋田中央：理系のトップだったがまだまだ力不足。結果は想定内。

本荘：準備不足が否めない。

大曲：落ちた子は面接でのビッグデータに答えられなかった。

横手：地学では問題に英語が入り、そちらの方の対策が必要になってくるかも。工学部は年々厳しさが増している印象。農学部は3年前から変化。学力が無いと厳しい。

◎高校の立場で大学への要望として

きらりと光る物を持っている生徒が受かってAOではないかと、我々のボヤキがある。
工学部のAOⅡで英語が重要になり、英語教員の負担が高まった。
◎倉元先生：大学では自立して勉強できる生徒がほしい。高校側が考える見方と大学側が考える見方は違う。2次のぎりぎりまで追い込んでやるのが基本となる。

【分科会2】「2年次の進路指導」（高い目標と学習意欲を維持させるための方策）

＜各校の実施状況＞

大館鳳鳴高校 代表 佐々木先生

- 1 志望理由書を書き、進路実現の決意 業者の採点も活用
- 2 上位者への発展問題 講話

能代高校 代表 斎藤先生

難関大学・上位大学希望者に土日講習を行い、東北大オープン模試等を実施
現在40名ほど参加 今後はグループ学習なども行っていきたい。

秋田西高校 代表 松渕先生

2年部独自に勉強クラブというものを行っている。
土曜日の午後に補習等を行っている。上位者に力を付け、進学への意識を持たせたい。

秋田高校 代表 高橋先生

高い目標を持たせたいが、夏休み明けから志望校を下げ始める生徒がいる。
面談を行い、モチベーションを下げないようにしたい。
東北大希望多いためオープン模試を実施し、解説も行う。
学習計画を立てて学習させたいが、計画的にできない生徒が多い。
昼講座の時間を設定し、5教科で20分程行っている。

秋田南高校 代表 笠原先生

学部ガイダンスを行っている。東北大から
7月 志望理由書を提出させ、希望者には指導を行う。
12月 第一志望宣言を提出。変更する場合は再度提出させる。

東北大学セミナー 教授にお願い 合格体験講話の実施予定 AO問題の実施
医学部希望者には大学で行われる様々な体験などの案内を通知し、参加を促している。
平日講習の募集を開始したので、今後実施予定。上位者を育てていきたい。

秋田中央 代表 白沢先生

放課後 3 教科の平日講習の実施。

模試の分析を行い、生徒へのアドバイスを載せた進路指導通信を配布している。

本荘 代表 武石先生

上位者を集めた集会の実施。東北大から来校してもらい講話等を行う。

週末課題を廃止した。課題をこなす（答えを写して提出）だけでは意味が無いと判断。

朝学小テストに切り替えた。

希望者に早朝講座を実施。内容は基礎と応用クラスでの補習。週 3 回、3 教科で一日ずつ。

大曲 代表 三浦先生

1 第一志望届けの実施。

2 勉強合宿を夏にトレセンで実施。 対象：上位者 難関大学進学希望者

冬はサンルーラルで実施。対象：フリー参加 全員対象

3 企業訪問・大学訪問の実施。保護者にも好評を得ている。

横手高校 打矢先生

自学自習教室の実施。模試の分析。勉強合宿を復活させた。1月サンルーラルで実施。志望理由書の提出。

湯沢高校 代表 伊藤先生

夏に勉強合宿を実施。上位者を対象にした補習を行っている。

進路担当者が学年の生徒全員と面談し、進路の悩みや相談に応じる。

秋田北 代表 小玉先生

前年度まで行ってきたことをやめている。全員対象の土曜講座は 10 回から 4 回に減らした。

授業を中心にやる方針に変えた。

数学は予習を中心に行い、グループ学習も行っている。そのため、模試の成績は数学は良いがそれ以外が良くない。

学年ではなく教科・分掌でそれぞれ頑張ることにしたがまだ軌道に乗っていないのが現状。

土曜補習や朝の講習など、先生の力に頼るところが大きい。生徒に頑張らせるにはどうすればよいのか。

代ゼミの講習も数学のみ。バランスが良くない

<各校の取り組みについての課題と成果>

大館 予習中心で数学の授業を行っているため生徒の姿勢が良いが、負担は大きいよう。

プラスして課題があると生徒は苦しいのが現状。バランスが難しい。

能代 考査前以外の勉強家庭学習時間の確保が難しい。クラッシーを活用し勉強時間の管理をしたい。

西高 勉強クラブを行っているが、学年のみの活動のため、部活の協力が得られない。
参加者は20人/175人。OB大学生を呼んで交流したり、模試の復習や面談を行う。
上位者で頑張る子も増えてきている。
冬休みの全員補習後にクリスマス会を実施したこと也有った。ケーキ楽しいこともやる

秋田 家庭学習時間の確保が課題。週末課題は出さずに小テストを朝学時間を活用して実施。
数学は週1、基本的な内容で全問正解で合格。古文単語等のテストは授業内で行っているが、そういった教科のみ学習するので、バランスが難しい。

秋田南 進研模試の結果があまり良くないので対策を立てる。
学校行事も終わり、学習に迎えるよう、集会等で気持ちの切り替えを図る。

秋田中央 生徒の実態として学力差が小さい。そのため上位者もいない状況。
以前中位者対策を行った。レベルにあった課題を出し、課題の意味を生徒に主任が伝えた。
提出期限も明示し、3週間程度で提出。
学年主導の進路指導が課題

本荘 ミニテストを実施し不合格者は追試を行っているが、課題が無くしたため、家で勉強しない。
模試の分析と対策を行い進路便りで勉強の仕方を提示する。
親も生徒も見る通信なので、学校側の目線では無く、生徒目線に立ち、生徒を勇気づける内容に変更。

大曲 生徒が受験について何も分かっていない。
前期と後期を一緒に出願することを知らない。推薦AOしか話してこなかったのが原因。
今後は入試のシステムをきちんと理解させたい。

横手 少子化の影響か下位層が多い。これまでに無い状況。
力を入れている教科に偏る。生徒目線で考えることをしていきたい。

湯沢 上位と下位の分散が見られる。
週末課題等の提出率が良くない。赤点も多い。授業中心に成績を付けた方が良いのか

もしれない。

<最後に>

各高校それぞれの悩みがあることが分かった。意欲の引き出し方や高い進路目標を持たせるのは難しい。

何年も教師を続いていると前年度の踏襲が多くなるが、生徒は年々変化してきている。生徒の実施に応じて続けることだけではなく、変えていくことも必要なかも知れない。

【分科会3】「大学入学共通テスト・英語外部検定試験への対応」

共通テストや外部英語検定試験の導入について、どう対応すべきかとまどう声が多い。東北大学の入試方針は理解できたが、県内の大学を含め、各大学での外部英語検定の扱い方も異なる。外部検定試験について、現1年生に対してどう対応しているか。次年度以降をどう考えているか。各校の意見や取組状況等情報を出してもらいたい。

<各校の取組、対応について>

- 多くの学校において、3年次に外部検定試験に何を用いるか検討中であるが、GTECまたは実用英語技能検定のどちらかを選択する方向が多い。また受験生自らどちらを受験するか、受験日も含め自分で選択し決める学校もある。
- 1、2年次においては、GTECを全員受験させたり、希望者には英検と併用で受験させる。年2回程度受験させる予定。
- ベネッセからの情報では、GTECを実施する際に会場と試験監督をベネッセで手配する予定のこと。
- GTECを実施した経験のある学校から、タブレット管理や運営上の手間がかかるとのこと。また学校の設備の関係で公平性や施行上の限界も感じる。

<協議・意見等>

- 英検は現段階では採択されないこと、練習のしやすさや2年後に使えることからGTECを実施することは当然なことだと感じるが、様々な不安要素や問題点もある。

①外部英語検定の実施時期について

- 外部検定の実施時期決まらないと動けないし、動かないと決められない。
- 3年次に受験時期を決めている学校はあるか。→一部の学校では4月か6月を予定。
- いつ受験させられるのかがわからない。やれるとすれば総体後の時期や夏休み明けの時期かと思われる。受験期日が生徒の希望に添えられればいいが、不透明。受験機会を確保するには部活動大会も関係する。部活動の大会開催日程の調整も必要なのではないか。
- 12高校進学指導協議会は高体連、高文連、高野連の会長も所属する場なので、この場から受験機会の担保を要望することも大事ではないか。
- 受験日は英検もGTECもそれぞれ決まっている。受験時期によって有利不利の差は生じないか。英検に関しては第1回は易しめ、第3回はそれなりの難易度に感じる。

- ・2年次の検定結果が入試に使えるとすると2～3月にあってもいいと思うが、ある情報によると2年次の検定結果を反映できるのはごく一部の優秀な生徒のみしか該当しないだろうという見解がある。
- ・秋田県で受験時期を特定できたらいいとも思ったが、学校の事情を聞くとそれも難しいことが改めて分かった。

②大学側の検定に対する扱い方

- ・外部検定が「出願要件」だったり、加点方式であってもランククリアだけになれば早いほどいい。4月に受けてクリアして終わりしたい。しかし、部活動によって受けられないことも懸念される。
- ・外部英語検定を受けること自体は悪いことでは無いが、実施時期や実際に受験可能かが不明であるし、入試に対する点数化は疑問を感じる。
- ・入試に点数化するのは反対だが、大学によって採択するところもあるので、やるからには配慮が必要である。
- ・大方は積極的に取り入れたいと思ってない。秋田県として、少なくとも、現1年生の大学入試に関しては外部検定を用いない要請を出してみてはどうか。

<まとめ>

- ・外部英語検定を受験する趣旨は良いが、入試に組み入れることは疑問である。しかし一方で実際に検定結果を合否に導入する大学は現に存在するので、検定を受ける際には各校、各部活動も最大限配慮して欲しい。
- ・G T E Cにせよ英検にせよ、問題点がありすぎる。学校の授業内に実施しても良いこと、学校の校内で実施すること、環境の違いなど公平性がゆらぐ。コンピューター操作が必要なことも問題である。その操作上の指導はいつやれるのか。また費用も高い。仙台に行かなければ受験できないことがあるのもまずい。このような問題点を各学校全体で話題にすることも必要である。
- ・部活動の大会との兼ね合いについては、少なくとも生徒が希望する外部検定の受験機会を失わせないように配慮して欲しいと提言してはどうか。
- ・2020年はオリンピックイヤーのため、高体連の様々な大会も開催時期が変動している。これによる受験への影響も懸念される。他県の情報も必要である。